

博士論文（要約）

論文題目 関東平野北西部における後期旧石器集団の
居住形態の変遷

氏名 小原 俊行

目次

はじめに	1
第1章 先行研究の検討と問題の所在	2
1-1. 編年研究	2
(1) 「群馬編年」の成立した背景と問題点	2
(2) 二極構造論・二項モード論を基にした編年観	4
a. 後期旧石器時代前半期	4
b. 後期旧石器時代後半期	6
1-2. 問題の設定と本論の目的	10
(1) 「群馬編年」に関する問題点	10
(2) 後期旧石器時代前半期における問題点	10
a. 「IX層中部段階」の整合性	10
b. 台形様石器 II 類と石刃サポートの共伴関係	11
(3) 後期旧石器時代後半期における問題点	13
a. 編年の根拠について	13
b. 遺跡数の激減に関する問題	13
(4) 本論の目的	14
第2章 分析方法	16
2-1. 石器製作技術の構造と石器の系統を捉えるための概念	16
(1) システム論的進化・発展観	16
(2) 二極構造論	16
(3) 系統的相同・機能的相似	18
(4) 技術的互換性・親和性	18
(5) 系統的個体識別法	19
2-2. 狩猟採集民の行動に関わる概念	19
(1) 居住形態論	19
(2) 生業領域・移動領域	20
(3) 機能態・待機態	21
2-2. 小結	21

第3章	関東平野北西部の地理的環境について	22
3-1.	「関東平野北西部」の地理的範囲と地形	22
3-2.	関東平野北西部周辺の資源分布構造	24
3-3.	小結	25
第4章	関東平野北西部の地形発達史と古環境変遷	27
4-1.	検出されるテフラと降下年代について	27
(1)	AT 下位のテフラ	27
(2)	AT 上位のテフラ	29
(3)	各テフラ間の年代	32
4-2.	地形発達史	33
(1)	利根川扇状地と前橋泥流堆積物	33
(2)	利根川の河道の変化	34
(3)	赤城山と大間々扇状地	36
a.	赤城山	36
b.	大間々扇状地	37
c.	赤城山南麓と大間々扇状地の地形と遺跡の立地について	37
(4)	関東平野北西部の地形発達史	39
4-3.	古環境復原	40
(1)	気候変動の年代観	40
(2)	後期旧石器時代の植生変遷と古環境復原	41
a.	日本列島における花粉分析に基づいた古環境変遷	41
b.	湖沼堆積物を基にした古環境変遷	43
c.	関東平野周辺域の古環境変遷	46
d.	小結	49
(3)	関東平野北西部の植生変遷と古環境復原	50
a.	植物珪酸体分析	51
b.	花粉分析	56
c.	その他	61
d.	小結	61
4-4.	動物相	63
4-5.	小結－関東平野北西部の地形発達史と古環境変遷	64

第5章 石器群の編年観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

5-1. 関東平野周辺域における石器群の編年観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

(1) 後期旧石器時代前半期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

a. 関東地方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

b. 東北地方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

c. 中部高地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

d. 環状ブロック群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

(2) 後期旧石器時代後半期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

a. 後半期前葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

b. 後半期中葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

c. 後半期後葉から縄文時代草創期前半・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77

(3) 各段階の実年代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78

5-2. Hr-HA～AT (35-30 ka cal BP) 間の編年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78

(1) Hr-HA～AT 下暗色帯-1 : 35-32 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78

(2) Hr-HA～AT 下暗色帯-2 : 35-32 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94

(3) Hr-HA～AT 下暗色帯-3 : 32-30 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112

(4) Hr-HA～AT 下暗色帯-4 : 32-30 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134

(5) AT 前後 : 30 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145

5-3. AT～As-YP (30-16 ka cal BP) 間の編年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156

(1) AT～MP:30-28 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156

(2) MP～As-BP Group (As-Mt 1～11) : 28-27 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158

(3) As-BP Group (As-Mt 1～11) : 27-24 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162

(4) As-Sr～As-Ok Group : 24-21 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 170

(5) As-Ok Group～As-YP - 1 : 21-19 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181

(6) As-Ok Group～As-YP - 2 : 20-16 ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 193

(7) As-YP～ : 16- ka cal BP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 198

5-4. 小結－関東平野北西部における石器群の編年観と古環境変遷との対応関係・・・・・・・・ 203

(1) 石器群の編年と年代観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203

a. 後期旧石器時代前半期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203

b. 後期旧石器時代後半期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209

(2) 古環境変遷との対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 212

a. 後期旧石器時代前半期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 212

b. 後期旧石器時代後半期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216

第 6 章 関東平野北西部における後期旧石器集団の居住形態の変遷・218

6-1. 35-32 ka cal BP 218
6-2. 32-30 ka cal BP 220
6-3. 30-27 ka cal BP 222
6-4. 27-24 ka cal BP 225
6-5. 24-19 ka cal BP 227
6-6. 20-15 ka cal BP 231

おわりに 234

謝辞 235

引用文献 236

図版出典 261

図版目次

図 1 群馬編年と検出テフラ・出土層位の関係模式図 (関口・早田・下岡 2011) 3
図 2 後期旧石器時代前半期の石器製作技術構造の変容 (国武 2005) 5
図 3 石器構造の変遷モデル (佐藤 1990) 17
図 4 関東平野北西部の地理的環境 (QGIS3.4 を用いて作成) 23
図 5 関東平野周辺域の石材資源分布 (田村・国武・吉野 2004、国武 2007 を改変) 25
図 6 関東平野北西部のテフラ堆積状況 27
図 7 利根川扇状地の鳥瞰図 (上段: 早田 2000) と断面図 (下段: 早田 1990) 34
図 8 前橋台地のボーリング調査箇所 (左) と断面 A-A' (右) (前橋市教育委員会 2016) 35
図 9 大間々扇状地の平面図 (上段左) と断面図 (上段右)、地形発達史 (下段) (澤口 2014) 38
図 10 赤城山南麓の遺跡周辺地形図 (岩崎 2008) 39
図 11 野尻湖堆積物における TOC、TN、CN 比と NGRIP との対比と気候段階区分 (工藤 2014) . 42
図 12 関東地方周辺における最終氷期最寒冷期の地形、標高に応じた森林植生の
棲み分け (西内 2017) 49
図 13 植物珪酸体分析・花粉分析対象遺跡位置図 (QGIS3.4 を用いて作成) 51
図 14 関東平野北西部のネザサ率・ミヤコザサ率 (1) 52
図 15 関東平野北西部のネザサ率・ミヤコザサ率 (2) 53
図 16 関東平野北西部のネザサ率・ミヤコザサ率 (3) 54
図 17 三和工業団地 I 遺跡 (上段) と三和工業団地 III 遺跡 (中・下段) の

	花粉ダイヤグラム（上段：群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999a を一部改変、 中・下段：伊勢崎市教育委員会 2004a）	57
図 18	関東平野北西部の地形発達史と古環境変遷（1）	65
図 19	関東平野北西部の地形発達史と古環境変遷（2）	66
図 20	関東平野北西部の遺跡位置図（QGIS3.4 を用いて作成）	69
図 21	和田遺跡 VII 層出土石器	80
図 22	天ヶ堤赤第 3 文化層出土石器・分布図	80
図 23	書上遺跡第 4 文化層出土石器	80
図 24	下触牛伏遺跡第 II 文化層出土石器・分布図	81
図 25	三和工業団地 I 遺跡第 4 文化層出土石器	84
図 26	三和工業団地 I 遺跡第 4 文化層分布図	86
図 27	三和工業団地 III 遺跡出土石器	87
図 28	白倉下原遺跡 A 区出土石器	88
図 29	折茂 III 遺跡出土石器	90
図 30	峯山遺跡第 2 文化層出土石器	90
図 31	古城遺跡出土石器・分布図	91
図 32	北山遺跡第 2 文化層出土石器	93
図 33	上泉唐ノ堀遺跡拡張 1・5 区第 3 文化層出土石器	95
図 34	神社裏遺跡出土石器	96
図 35	天引狐崎遺跡出土石器・分布図	97
図 36	大上遺跡第 4 文化層出土石器	98
図 37	波志江西宿遺跡 III 期出土石器	99
図 38	分郷八崎遺跡出土石器・分布図	100
図 39	武井峯岸 V 遺跡出土石器	100
図 40	山上城跡出土石器	102
図 41	多比良追部野遺跡出土石器	102
図 42	新田西沢遺跡出土石器	103
図 43	今井三騎堂遺跡第 IV 文化層 A 地点出土石器	104
図 44	荒砥北三木堂 II 遺跡第 3 文化層出土石器・分布図	106
図 45	内堀遺跡出土石器・分布図	108
図 46	白岩民部遺跡第 II 文化層出土石器	109
図 47	白倉下原遺跡 B 区出土石器	110
図 48	富田西原遺跡出土石器	114
図 49	諏訪西遺跡出土石器	114
図 50	房谷戸遺跡第 II 文化層出土石器	115
図 51	萱野 II 遺跡第 4 文化層出土石器	117
図 52	今井三騎堂遺跡第 IV 文化層 C 地点出土石器	118
図 53	北山 B 遺跡第 1 文化層第 3 石器集中出土石器	120

図 54	北山 B 遺跡第 1 文化層第 1 石器集中出土石器	121
図 55	善上遺跡出土石器	122
図 56	三峰神社裏遺跡・大友館址遺跡出土石器	122
図 57	大上遺跡第 3 文化層出土石器 (1)	124
図 58	大上遺跡第 3 文化層出土石器 (2)	125
図 59	大上遺跡第 3 文化層分布図	126
図 60	天引向原遺跡出土石器	128
図 61	書上遺跡第 3 文化層 I 区出土石器・分布図	129
図 62	上泉唐ノ堀遺跡第 2 文化層出土石器	130
図 63	上泉唐ノ堀遺跡第 2 文化層分布図	131
図 64	見立溜井遺跡第 IV 文化層出土石器	135
図 65	堤沼上遺跡第 2 文化層出土石器	135
図 66	後田遺跡出土石器 (1)	137
図 67	後田遺跡出土石器 (2)	138
図 68	勝保沢中ノ山遺跡出土石器	140
図 69	書上本山遺跡出土石器	143
図 70	萱野 II 遺跡第 3 文化層出土石器	143
図 71	今井見切塚遺跡第 IV 文化層第 50 地点出土石器	143
図 72	堀下八幡遺跡出土石器	147
図 73	熊の穴 II 遺跡出土石器	147
図 74	三ツ子沢中遺跡出土石器	148
図 75	吾妻遺跡出土石器	148
図 76	前道下遺跡 E 地点出土石器	150
図 77	清水遺跡第 2 地点出土石器	152
図 78	砂押遺跡出土石器	152
図 79	亀泉坂上遺跡第 2 文化層出土石器	152
図 80	今宮遺跡出土石器	153
図 81	堀越甲真木 B 遺跡出土石器	155
図 82	和田山天神前遺跡出土石器	155
図 83	見立溜井遺跡第 III 文化層出土石器	158
図 84	多胡蛇黒遺跡第 2 文化層出土石器	158
図 85	大上遺跡第 2 文化層出土石器	158
図 86	白岩民部遺跡第 I 文化層・多胡蛇黒遺跡第 1 文化層出土石器	160
図 87	波志江西宿遺跡 II 期出土石器	160
図 88	書上遺跡第 3 文化層 II 区出土石器	162
図 89	書上遺跡第 2 文化層出土石器	162
図 90	上白井西伊熊遺跡第 2 文化層出土石器	163
図 91	峯山遺跡第 1 文化層出土石器	164

図 92	前道下遺跡 C 地点出土石器	164
図 93	今井見切塚遺跡第 III 文化層第 1 a 地点出土石器	165
図 94	今井見切塚遺跡第 III 文化層第 9・11・12 地点出土石器	165
図 95	今井三騎堂遺跡第 III 文化層第 1 地点出土石器	167
図 96	天ヶ堤遺跡第 2 文化層出土石器	167
図 97	萱野 II 遺跡第 2 文化層出土石器	167
図 98	高林西原古墳群出土石器	168
図 99	房谷戸遺跡第 II 文化層 (As-BP Group) 出土石器	168
図 100	見立溜井遺跡第 II 文化層出土石器	168
図 101	吹屋犬小塚遺跡第 2 文化層出土石器	171
図 102	富田下大日遺跡第 1 文化層出土石器	171
図 103	本関町古墳群 C 区出土石器	172
図 104	今井三騎堂遺跡第 II 文化層第 1 地点出土石器・分布図	173
図 105	下触牛伏遺跡第 I 文化層出土石器・分布図	175
図 106	小暮東新山遺跡第 3 文化層出土石器	177
図 107	東長岡戸井口遺跡第 1 文化層 A 地点出土石器・分布図	178
図 108	石神遺跡第 2 文化層出土石器	180
図 109	前道下遺跡 D 地点出土石器	180
図 110	武井遺跡分布図	183
図 111	武井遺跡出土石器 (関口・勢藤 2004)	184
図 112	蛭川遺跡出土石器	186
図 113	梨子木 J 遺跡出土石器	186
図 114	広間地西遺跡第 3 石器群出土石器	186
図 115	今井三騎堂遺跡第 II 文化層第 2 地点出土石器・分布図	188
図 116	前道下遺跡 A 地点出土石器	189
図 117	亀泉坂上遺跡第 1 文化層出土石器	190
図 118	田谷遺跡第 1 文化層出土石器	190
図 119	今井三騎堂遺跡第 II 文化層第 5 地点出土石器	191
図 120	胴城遺跡出土石器	192
図 121	上泉唐ノ堀遺跡第 1 文化層 A 地点出土石器	192
図 122	八ヶ入遺跡出土石器	195
図 123	柏倉芳見沢遺跡出土石器	196
図 124	三和工業団地 IV 遺跡出土石器	197
図 125	馬見岡遺跡出土石器	197
図 126	房谷戸遺跡第 I 文化層出土石器	200
図 127	荒砥北三木堂遺跡第 III 文化層出土石器・分布図	202
図 128	後期旧石器時代前半期における石器製作技術構造の変化と古環境変動との対応関係	205
図 129	後期旧石器時代後半期における石器群の変化と古環境変動との対応関係	210

図 130	35-32 ka cal BP の遺跡分布 (1)	219
図 131	35-32 ka cal BP の遺跡分布 (2)	220
図 132	32-30 ka cal BP の遺跡分布 (1)	221
図 133	32-30 ka cal BP の遺跡分布 (2)	222
図 134	30-28 ka cal BP の遺跡分布	223
図 135	28-27 ka cal BP の遺跡分布	224
図 136	27-24 ka cal BP の遺跡分布	226
図 137	24-21 ka cal BP の遺跡分布	228
図 138	21-19 ka cal BP の遺跡分布	229
図 139	20-16 ka cal BP の遺跡分布	231
図 140	16-15 ka cal BP の遺跡分布	232

表目次

表 1	AT 下位のテフラの降下年代	28
表 2	AT 上位のテフラの降下年代	30
表 3	遺跡一覧 (1)	70
表 4	遺跡一覧 (2)	71
表 5	遺跡一覧 (3)	72
表 6	関東平野北西部における後期旧石器時代の編年	204

5年以内に出版予定

引用文献

- 相沢忠洋・関矢昭 1988 『赤城山麓の旧石器』講談社
- 青木かおり・入野智久・大場忠道 2008 「鹿島沖海底コア MD01-2421 の後期更新世テフラ層序」『第四紀研究』47 (6) pp391-407 第四紀学会
- 赤城村教育委員会 1986 『見立溜井遺跡・見立大久保遺跡』
- 秋田県教育委員会 1985 『七曲台遺跡群発掘調査報告書』
- 秋田県教育委員会 1991 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 VIII ー小出 I 遺跡・小出 II 遺跡・小出 III 遺跡・小出 IV 遺跡ー』
- 秋田市教育委員会 2011 『地藏田遺跡ー旧石器時代編ー』
- 阿久澤智和 2004 「赤堀町千鳥遺跡出土の槍先形尖頭器について」『群馬考古学手帳』14 pp39-42 群馬土器観会
- 阿子島香 1983 「ミドルレンジセオリー」『芹沢長介先生還暦記念 考古論叢 I』pp171-197 芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
- 麻生順司 2015 「大和市域を中心とした旧石器時代の変遷についてー上草柳遺跡群大和配水池内遺跡の調査事例を基にー」『大和市史研究』39 pp1-44 大和市役所
- 阿部朝衛 1993 「新潟県荒川台遺跡の細石刃生産技術の実態ー荒川台技法の提唱ー」『法政考古学』20 pp 1-22 法政考古学会
- 阿部敬 2018 「愛鷹・箱根の第 2 期の遺物と遺構」『日本考古学協会 2018 年度静岡大会 研究発表資料集境界の考古学』pp55-59 同大会実行委員会
- 新井房夫 1962 「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学研究紀要 自然科学編』10-4 pp 1-75 群馬大学
- 新井房夫 1964 「前橋泥炭層の絶対年代と旧石器包含層の年代」『地球科学』21 p37 地学団体研究会
- 新井房夫 1967 「前橋泥流の噴出年代と岩宿 I 文化期」『地球科学』70 p46 地学団体研究会
- 新井房夫 1971 「前橋市の地形・地質」『前橋市史 1』pp 8-66 前橋市
- 新井房夫・鹿間時夫 1955 「群馬県利根郡川場村産象歯化石について」『地質学雑誌』61-721 pp505-508 日本地質学会
- 新井房夫・木崎喜雄 1958 「上越地方谷川岳南部のグリンタフ第三紀系について（その 1）ー水上層群・猿ヶ京層群の層序記載ー」『藤本義治教授還暦記念論文集』pp213-219 藤本義治教授還暦記念会
- 新井雅之・矢口裕之 1994 「榛名火山の後期更新世末から完新世の噴火史」『第四紀学会講演要旨集』24 pp174-175 第四紀学会
- 新井雅之・矢口裕之・中村正芳・早川由紀夫・高崎地学愛好会 1993 「およそ 1 万年前に発生した高崎泥流の分布と起源」『日本地質学会第 100 年学術大会講演要旨』p296 日本地質学会
- 安斎正人 1991 『無文字社会の考古学』六一書房
- 安斎正人 1992 「ナイフ形石器の発生ー日本旧石器時代構造変動論（2）ー」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』10 pp103-127 東京大学文学部考古学研究室
- 安斎正人 1994 『理論考古学ーモノからコトへー』柏書房
- 安斎正人 2003a 「石器から見た人の行動進化」『考古学 I』pp78-128 安斎正人編集
- 安斎正人 2003b 『旧石器社会の構造変動』同成社
- 安斎正人 2004 「東北日本における' 国府系石器群' の展開ー槍先形尖頭器石器群出現の前提ー」『考古学』2 pp1-40 安斎正人編
- 安斎正人 2007 「『ナイフ形石器文化』批判ー狩猟具の変異と変遷ー（前編）」『考古学』5 pp1-32 安斎正人編
- 安中市教育委員会 1988 『古城遺跡』
- 安中市教育委員会 1990 『三本木遺跡・落合遺跡』
- 安中市教育委員会 1993 『大下原遺跡・吉田原遺跡』
- 安中市教育委員会 1994 『中野谷地区遺跡群ー自然科学編ー』

- 安中市教育委員会 1998 『中野谷松原遺跡—縄文時代遺物本文編—』
- 安中司教育委員会 2003 『東上秋間遺跡群発掘調査報告書』
- 安中市教育委員会 2014 『西横野東部地区遺跡群』
- 安間恵・長岡正利・丹羽俊二・関本勝久・吉川昌伸・藤根久 1990 「諏訪湖湖底の構造調査と環境地質」『地質学論集』 36 pp179-194 日本地質学会
- 安蒜政雄 1979a 「石器の形態と機能」『日本考古学を学ぶ』 2 pp19-41 有斐閣
- 安蒜政雄 1979b 「日本の細石核」『駿台史学』 47 pp152-183 駿台史学会
- 安蒜政雄 1985 「先土器時代における遺跡の群集的な成り立ちと遺跡群の構造」『論集 日本原史』 pp193-216 吉川弘文館
- 安蒜政雄 1986 「先土器時代の石器と地域」『岩波講座 日本考古学』 5 pp27-60 岩波書店
- 安蒜政雄 1990 「先土器時代人の生活空間—先土器時代のムラー」『日本村落史講座 2 景観 I 原始・古代・中世』 pp 3-22 雄山閣
- 飯島静男 1987 「群馬県の地質」『群馬県植物誌 (改訂版)』 pp1-9 群馬県
- 飯田茂雄 2015 「広間地西遺跡の旧石器時代石器群」『新里地区遺跡群発掘調査報告 VI』 pp81-94 桐生市教育委員会
- 胆沢町教育委員会 1988 『上秋森遺跡調査報告書』
- 伊勢崎市教育委員会 2004a 『三和工業団地 II・III・IV 遺跡—自然科学分析編—』
- 伊勢崎市教育委員会 2004b 『三和工業団地 III 遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会 2004c 『三和工業団地 IV 遺跡』
- 五十嵐彰 2019 「旧石器接合個体 2 例：練馬区比丘尼橋遺跡 C 地点」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』 33 pp83-90 東京都埋蔵文化財センター
- 五十嵐八枝子 2009 「北西太平洋・鹿島沖コア MD01-2421 の MIS 6 以降の花粉記録：陸域資料との対比」『地質学雑誌』 115-7 pp357-366
- 石田典子 2010 「上武道路・旧石器時代遺跡群出土石器の使用痕分析」『上武道路・旧石器時代遺跡群 (2)』 pp442-443 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 石原武志・須貝俊彦・八戸昭一 2011 「荒川低地中・上流域と妻沼低地における最終氷期の埋没地形面群」『第四紀研究』 50 (2) pp113-128 第四紀学会
- 出穂雅美 2005 「マンモスハンター論総論 (1)」『論集 忍路子』 1 pp13-27 忍路子研究会
- 出居博 2006 「環状に分布する石器群に定住性を探る」『唐澤考古』 25 pp1-28 唐澤考古会
- 伊藤健 1991 「ナイフ形石器の変異と変遷」『研究論集』 10 pp83-107 東京都埋蔵文化財センター
- 伊藤健 2018 「後期旧石器時代「武蔵野編年」の新地平—槌状剥離有する尖頭器石器群をめぐる—」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』 32 pp27-56 東京都埋蔵文化財調査センター
- 稲田晃・大浜和子・島村健二 1998 「千葉県八千代市新川低地における最終氷期後期以降の植生変遷」『第四紀研究』 37 pp283-298 第四紀学会
- 稲田孝司 1989 『哺乳類動物化石の産状と旧石器文化 岡山大学文学部研究叢書 2』岡山大学文学部
- 稲田孝司 2006 「環状ブロック群と後期旧石器時代前半期の集団関係」『旧石器研究』 2 pp55-68 日本旧石器学会
- 井上昌美・桜井美枝 1999 「第 4 文化層出土黒色安山岩の分析」『三和工業団地 I 遺跡 (1) 旧石器時代編』 pp222-225 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 茨城県教育財団 2005 『加茂遺跡』
- 岩澤正作 1933 『新里村郷土大観』 新里村史蹟保存会
- 岩澤正作 1939a 「石器時代の笠懸村 (上)」『毛野』 5- 1 pp 5-10 毛野研究会
- 岩澤正作 1939b 「石器時代の笠懸村 (下)」『毛野』 5- 2 pp 1- 9 毛野研究会
- 岩宿フォーラム実行委員会 1993 『環状ブロック群』
- 岩宿フォーラム実行委員会 1994 『群馬の岩宿時代の変遷と特色』

- 岩宿フォーラム実行委員会 1998 『武井遺跡と北関東の槍先形尖頭器文化』
- 岩宿フォーラム実行委員会 2000 『槍先形尖頭器文化期の集落と武井遺跡』
- 岩宿フォーラム実行委員会 2004 『武井遺跡の槍先形尖頭器』
- 岩宿フォーラム実行委員会 2013 『槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり—武井遺跡発掘 60 周年—』
- 岩崎泰一 1988 「AT 降灰以前の石器群」『群馬の考古学 創立十周年記念論集』 pp11-30 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 岩崎泰一 1995 「旧石器時代の遺跡」『沼田市史 資料編 1 原始古代・中世』 pp41-64 沼田市
- 岩崎泰一 2008 「湧水群周辺の旧石器遺跡」『前道下遺跡（2）—旧石器時代編—』 pp152-161 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 岩崎泰一・津島秀章 2011 「みなかみ町藤原の石器製作跡—武尊山産黒色安山岩の源郷を探る—」『研究紀要』 29 pp41-52 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 岩瀬彬 2015 「日本列島後期旧石器時代における石器使用の変異性：使用痕分析の集成と検討」『論集忍路子』 IV pp47-102 忍路子研究会
- 岩瀬彬 2018 「古本州島東半部における後期旧石器時代の石器使用の変異性とその含意」『旧石器研究』 14 pp51-64 日本旧石器学会
- 岩瀬彬・橋詰潤・出穂雅美 2010 「日本列島の後期更新世後半における陸生哺乳動物相研究の現状と課題」『論集忍路子』 III pp89-121 忍路子研究会
- 浦和市遺跡調査会 1986 『北宿西・北宿南遺跡発掘調査報告書』
- 内山隆 1998 「関東地方の植生史」『図説 日本列島植生史』 pp73-91 朝倉書店
- 遠藤邦彦 2017 「利根川の流路変遷と沖積層」『日本の沖積層—未来と過去を結ぶ最新の地層— 改訂版』 pp228-235 富山房
- 大井信夫 2016 「花粉分析に基づいた日本における最終氷期以降の植生史」『植生史研究』 25 pp1-101 日本植生史学会
- 大井信夫・北田奈緒子・斉藤礼子・宮川ちひろ・岡井大八 2004 「福井県中池見後期更新世堆積物の花粉分析からみた植生史」『植生史研究』 12-2 pp61-73 日本植生史学会
- 大石雅之 2015 「八ヶ岳火山の最新軽石噴火による Yt-Pm4 テフラの放射性炭素年代」『火山』 60 (4) pp477-481 日本火山学会
- 大石雅之・鈴木毅彦 2004 「八ヶ岳火山を起源とする新規テフラ群の層序と噴火史」『火山』 49 (1) pp1-12 日本火山学会
- 大泉町教育委員会 1984 『御正作遺跡』
- 大嶋秀明・徳永重元・下川浩一・水野清秀・山崎晴雄 1997 「長野県諏訪湖湖底堆積物の花粉化石群集とその対比」『第四紀研究』 36 (3) pp165-182 第四紀学会
- 大島治 1986 「榛名山」『日本の地質 3 「関東地方」』 pp222-224 共立出版
- 大塚達朗 1986 「安行 1 式土器型式構造論基礎考」『東京大学考古学研究室研究紀要』 5 pp1-40 東京大学考古学研究室
- 岡村道雄・松藤和人・木村英明・辻誠一郎・馬場悠男 1998 『旧石器時代の考古学』 学生社
- 岡屋英治 2015 「館林地域の旧石器文化」『館林市史 通史編 1 館林の原始古代・中世』 pp57-61 館林市史編さん委員会
- 沖津進 2002 「最終氷期の本州における針広混交林の成立にはたすチョウセンゴヨウの生態的役割」『植生史研究』 11-1 pp3-12 日本植生史学会

- 奥田昌明・中川毅・竹村恵二 2010 「花粉による琵琶湖など長期スケールの湖沼堆積物からの古気候復元の現状と課題」『第四紀研究』49 (3) pp133-146 第四紀学会
- 奥村吉信 1987 「東日本のペン先形ナイフ形石器を伴う石器群」『旧石器考古学』35 pp27-36 旧石器文化談話会
- 小田静夫 1971 「台形石器について」『物質文化』18 pp1-13 物質文化研究会
- 小田静夫 1980 「武蔵野台地に於ける先土器文化」『神奈川考古』8 pp11-27 神奈川考古同人会
- 尾田識好 2016 「ナイフ形石器文化終末期」集団の地域的行動－関東・中部地方の事例研究－『研究紀要』30 pp1-18 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 尾田識好・神田和彦 2018 「古本州島の後期旧石器時代前半期石器群（東北部）」『日本旧石器学会第16回研究発表・シンポジウム予稿集 日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える』pp62-65 日本旧石器学会
- 小野昭・島田和高・橋詰潤・吉田明弘・公文富士夫 編 2016 『長野県中部高地における先史時代人類誌 広原遺跡群第1次～第3次調査報告書』明治大学黒曜石研究センター
- 小野有五・五十嵐八枝子 1991 『北海道の自然史 氷期の森林を旅する』北海道大学図書刊行会
- 小野寺透 1950 「赤城火山の崩落に関する地質学的研究」『カスリン颱風の研究－利根川水系における災害の実相－』pp139-162 群馬県災害対策特別委員会
- 織笠昭 1979 「ナイフ形石器と切出形石器」『神奈川考古』7 pp21-48 神奈川考古同人会
- 織笠昭 1987 「国府型ナイフ形石器の形態と技術（下）」『古代文化』39-12:15-30
- 貝塚爽平 1958 「関東平野の地形発達史」『地理学評論』31-2 pp59-85 日本地理学会
- 角張淳一 1991 「黒曜石原産地遺跡と消費遺跡のダイナミズム－後期旧石器時代石器群の行動論的理解－」『先史考古学論集』1 pp25-82 安斎正人編集
- 笠懸町教育委員会 1993 『笠懸町内遺跡Ⅰ』
- 笠懸町教育委員会 1995 『笠懸町内遺跡Ⅱ』
- 笠懸村教育委員会 1980 『和田遺跡調査概報』
- 笠懸村誌刊行委員会 1983 『笠懸村誌 別巻一 資料編 自然編・原始古代編』
- 柏倉亮吉 1964 「金谷原遺跡」『山形県の無土器文化』pp18-20 山形県教育委員会
- 加藤晋平 1981 「旧石器時代の漁撈活動－先土器時代の経済活動を考える上で－」『信濃』33-4 pp1-12 信濃史学会
- 加藤晋平・松本美枝子 1984 「日本細石刃文化の源流」『史艸』25 pp39-82 日本女子大学史学会
- 加藤晋平・山田昌久 1986 「先土器時代」『岩波講座 日本考古学』別巻2 pp13-30 岩波書店
- 加藤学 2016 「中部地方北部における更新世末の環境変動と人類活動」『旧石器研究』12 pp115-134 日本旧石器学会
- 加藤稔・渋谷孝雄 1973 『山形県岩井沢遺跡の研究－小国盆地の旧石器時代－』山形考古学文献刊行会
- 神奈川県教育委員会 1980 『寺尾遺跡』
- 叶内敦子 1987 「鬼怒沼湿原堆積物の花粉分析」『第四紀研究』26 (2) pp147-153 第四紀学会
- 叶内敦子 1988 「福島県南部・矢の原湿原堆積物の花粉分析による最終氷期の植生変遷」『第四紀研究』27 (3) pp177-186 第四紀学会
- 叶内敦子 1990 「群馬県小川島と山梨県鶴島における阿蘇4火山灰を挟む泥炭層の花粉分析」『駿台史学』79 pp25-34 駿台史学会
- 叶内敦子 1998 「山地湿原の発達史と古環境」『植生史研究』7 pp15-23 日本植生史学会

- 鹿又喜隆 2005 「東北地方後期旧石器時代初頭の石器の製作技術と機能の研究－岩手県胆沢町上萩森遺跡 IIb 文化層の分析をとおして－」『宮城考古学』7 pp1-26 宮城県考古学会
- 鹿又喜隆 2007 「更新世末から完新世初頭にみられる人類の適応環境－東日本の事例から－」『宮城考古学』9 pp1-21 宮城県考古学会
- 鹿又喜隆 2015 「東北地方の後期旧石器時代における石器石材の獲得と消費の変化」『旧石器研究』11 pp29-48 日本旧石器学会
- 加部二生 2004 「赤城山麓の旧石器文化」『勢多郡 文化財ニュース』6 pp1-15 群馬県勢多郡町村教育委員会事務研究会
- 加部二生・阿久澤智和 2009 「山内出 B 遺跡」『石器文化研究』15 pp75-78 石器文化研究会
- 加部二生・石田典子・後藤佳一 2003 「梨ノ木 J 遺跡」『第9回 石器文化研究交流会－発表要旨－』pp17-20 石器文化研究会
- 加部二生・小菅将夫 1995 「武井遺跡」『第2回 石器文化研究交流会－発表要旨－』pp 4-10 石器文化研究会
- 加部二生・大工原豊 1992 「群馬県新里村十社（じゅうにそう）遺跡の調査」『第5回 長野県旧石器文化研究交流会』pp16-21 長野県旧石器文化研究交流会
- 加部二生・大工原豊・町田正行 1992 「群馬県新里村十二社遺跡の石器群について」『第6回 東北日本の旧石器文化を語る会』pp23-29 東北日本の旧石器文化を語る会
- 鎌木義昌 1957 「西日本の無土器文化について－特に瀬戸内を中心として－」『私たちの考古学』4-1 pp15-22 考古学研究会
- 鎌木義昌 1960 「先縄文文化の変遷」『図説 世界文化史体系』20 pp35-43 角川書店
- 鎌木義昌・高橋護 1965 「瀬戸内地方の先土器時代」『日本の考古学 I 先土器時代』pp284-302 河出書房新社
- 亀田直美 1995 「武蔵野台地 V 層 IV 層下部段階における遺跡構造」『古代探叢 IV 滝口宏先生追悼考古学論集』pp 1-15 早稲田大学出版部
- 亀田直美 2005 「南関東の研究現状」『石器文化研究』12 pp157-172 石器文化研究会
- 軽部達也 1994 「関東地方における岩宿時代編年と古環境復元の方向性について－関信地域の編年の接点と遺跡の古環境調査について－」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』5 pp81-93 名古屋大学年代測定総合研究センター
- 軽部達也・小原俊行 2013 「武井遺跡周辺の槍先形尖頭器文化の遺跡」『岩宿フォーラム 2013 槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり－武井遺跡発掘 60 周年－』pp39-48 岩宿フォーラム実行委員会
- 河井興三・山田博 1960 「群馬県太田・大間々地域の第三系と後期中新世における関東西北部の古地理について」『石油技術協会誌』25-2 pp10-18 石油技術協会
- 河村善也 1998 「第四紀における日本列島への哺乳類の移動」『第四紀研究』37 (3) pp251-257 第四紀学会
- 河村善也 2011 「更新世の哺乳類」『講座 日本の考古学 1 旧石器時代 上』pp178-195 青木書店
- 河村善也 2014 「日本とその周辺の東アジアにおける第四紀哺乳動物相の研究－これまでの研究を振り返って－」『第四紀研究』53 (3) pp119-142 第四紀学会
- 河村善也・中越利夫 1997 「本州中・西部における第四紀末の哺乳類の絶滅現象とそれに関連する諸問題」『広島大学文学部帝釈遺跡群発掘調査室年報』12 pp155-168 広島大学文学部帝釈遺跡群発掘調査室
- 河村善也・亀井節夫・樽野博幸 1999 「日本の中・後期更新世の哺乳動物相」『第四紀研究』28 (4) pp317-326 第四紀学会
- 菅頭明日香・濱田翠・三浦麻衣子 他 2016 「群馬県北町遺跡及び堀越甲真木 B 遺跡出土黒曜石石器群の産地分析」『岩宿フォーラム 2016 ナイフ形石器文化の発達期と変革期－浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群－』

- pp51-55 岩宿博物館
- 菊池隆男 1979 「関東平野中央部における後期更新世以後の古地理の変遷」『第四紀研究』 17 (4) pp215-221
第四紀学会
- 菊池隆男 1981 「先史時代の利根川水系とその変遷」『アーバンクボタ』 19 pp2-5 クボタ
- 木崎喜雄 1985 「群馬県の地形と地質」『群馬県動物誌』 pp1-9 群馬県
- 木崎喜雄・野村哲・中島啓治 1977 「群馬の古(こ)ゾウ」『群馬のおいたちをたずねて 上』 pp164-166
上毛新聞社
- 北江古田遺跡調査会 1987 『北江古田遺跡発掘調査報告書』
- 北関東細石器研究グループ 2006 「大雄院前遺跡」『第 11 回 石器文化研究交流会—発表要旨—』 pp26-29
石器文化研究会
- 北関東細石器研究グループ 2007 「鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡」『第 12 回 石器文化研究交流会—発表要旨—』 pp29-32
石器文化研究会
- ギャンブル .C. 田村隆 訳 2001 『ヨーロッパの旧石器社会』同成社
- 桐生市教育委員会 2008 『平成 17・18 年度発掘調査概報』
- 桐生市教育委員会 2010 『新里地区遺跡群発掘調査報告書 I』
- 桐生市教育委員会 2015 『新里地区遺跡群発掘調査報告書 VI』
- 桐生市教育委員会 2016 『新里地区遺跡群発掘調査報告書 VII』
- 工藤雄一郎 2011 「旧石器時代研究における年代・古環境論」『講座 日本の考古学 1 旧石器時代 上』
pp124-155 青木書店
- 工藤雄一郎 2012 『旧石器・縄文時代の環境文化史 高精度放射性炭素年代測定と考古学』新泉社
- 工藤雄一郎 2014 「後期旧石器時代の広域編年対比に向けて— 14C 年代測定の高精度化と較正年代による年代
観の変化—」『旧石器研究』 10 pp11-22 日本旧石器学会
- 久保誠二 2007 「第 1 章 地形と地質」『榛名町誌 自然編』 pp6-52 榛名町誌編さん委員会
- 久保誠二 2017 「群馬県南部に分布する前橋泥流堆積物中の埋もれ木」『群馬県立自然史博物館研究報告』 21
pp55-56 群馬県立自然史博物館
- 公文富士夫 2003 「古気候指標としての湖沼堆積物中の全有機炭素・全窒素含有率の有効性」
『第四紀研究』 4 2(3) pp195-204 第四紀学会
- 公文富士夫・田原敬治 2009 「中部山岳地域の湖沼堆積物の有機炭素含有率を指標とした過去 16 万年間の気候
変動復元」『地質学雑誌』 115-7 pp344-356 日本地質学会
- 公文富士夫・河合小百合・井内美郎 2003 「野尻湖湖底堆積物中の有機炭素・全窒素含有率および花粉分析に
基づく約 25,000～6,000 年前の気候変動」『第四紀研究』 42(1) pp13-26 第四紀学会
- 公文富士夫・河合小百合・木越智彦 2013 「中部山岳地域における第四紀後期の気候変動」『地学雑誌』
122-4 pp571-590 東京地学協会
- 国武貞克 1999 「石材消費と石器製作, 廃棄による遺跡の類別—行動論的理解に向けた分析法の試み—」『考
古学研究』 46- 3 pp35-55 考古学研究会
- 国武貞克 2002 「旧石器時代の領域分析—特定共時における' 戦略束' —」『東京大学考古学研究室研究紀要』
17 pp 1-68 東京大学考古学研究室
- 国武貞克 2003 「両面調整体の由来—関東地方 V 層・IV 層下部段階から砂川期にかけての石材消費戦略の連続
性—」『考古学』 1 pp52-77 安斎正人編
- 国武貞克 2004a 「石刃生産技術の適応論的考察—房総半島 IX 層の石刃生産技術の変遷—」『考古学 II』

pp76-92 安斎正人編集

国武貞克 2004b 『石材分析による旧石器時代の居住行動研究』東京大学博士学位論文（甲）

国武貞克 2005 「後期旧石器時代前半期の居住行動の変遷と技術構造の変容」『物質文化』78 pp 1-26 物質文化研究会

国武貞克 2007 「石材と行動」『ゼミナール旧石器考古学』pp129-144 同成社

国武貞克 2008 「回廊領域仮説の提唱」『旧石器研究』4 pp83-98 日本旧石器学会

栗島義明 1991 「人と社会」『石器文化研究』3 pp231-241 石器文化研究会

栗原伸好 2000 「槍先形尖頭器の変遷—相模野台地における「砂川期」石器群の例を中心に—」『石器文化研究』9 pp23-31 石器文化研究会

群馬県企業局 1999 『赤城山頂カルデラ内南縁の地質並びに温泉調査』

群馬県教育委員会 1987 『後田遺跡』

群馬県教育委員会 2011 『小暮東新山遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982 『日高遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984 『県立文書館遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986a 『下触牛伏遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986b 『中畔遺跡・諏訪西遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989 『勝保沢中ノ山遺跡Ⅱ』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 『堀下八幡遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 『荒砥北三木堂遺跡Ⅱ』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991b 『白石大御堂遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992a 『書上本山遺跡 波志江六反田遺跡 波志江天神山遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992b 『房谷戸遺跡Ⅱ』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992c 『二之宮千足遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993a 『多胡蛇黒遺跡 古墳・奈良・平安時代の集落跡の調査』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993b 『神保富士塚遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993c 『矢田遺跡Ⅳ』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993d 『下川田下原遺跡・下川田平井遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994a 『天引狐崎遺跡Ⅰ』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994b 『白倉下原・天引向原遺跡Ⅰ』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994c 『小島田八日市遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995a 『今井道上・道下遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995b 『内匠日向周地遺跡・下高瀬寺山遺跡・下高瀬前田遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『元総社寺田遺跡Ⅲ』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『多比良追部野遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998a 『白井北中道Ⅱ遺跡 吹屋犬子塚遺跡 吹屋中原遺跡（旧石器・縄文時代編）』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998b 『白井遺跡群—縄文時代編—』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999a 『三和工業団地Ⅰ遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999b 『和田山天神前遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999c 『東長岡戸井口遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999d 『下植木寺町田遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000a 『白川笹塚遺跡 白岩浦久保遺跡 白岩民部遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000b 『三ツ子沢中遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000c 『中里見遺跡群』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001a 『波志江中宿遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001b 『八寸長溝遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001c 『徳丸仲田遺跡（1）－縄文時代草創期編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001d 『石墨遺跡（沼田チェーンベース地点D）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『波志江中屋敷東遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003a 『中内村前遺跡（2）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003b 『新田西沢遺跡・新田平林遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003c 『光仙房遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004a 『今井三騎堂遺跡－旧石器時代編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004b 『波志江西宿遺跡Ⅱ（縄文時代・旧石器時代編）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005a 『高林三入遺跡・八反田遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005b 『石原東遺跡D区・諏訪ノ木V遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005c 『舞台遺跡（3）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『高林西原古墳群』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007a 『今井見切塚遺跡－旧石器時代編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007b 『吹屋遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007c 『荒砥北原Ⅱ遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007d 『砂押遺跡・拾式木遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007e 『吹屋三角遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007f 『中郷田尻遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007g 『塚下遺跡（2）・上柳沢遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007h 『下元屋敷遺跡・下田遺跡（1）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008a 『天ヶ堤遺跡（2）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008b 『大上遺跡－旧石器時代編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008c 『書上遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008d 『上武道路・旧石器時代遺跡群（1）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008e 『前道下遺跡（2）－旧石器時代編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008f 『本関町古墳群』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008g 『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009a 『峯山遺跡Ⅰ－旧石器・縄文時代編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009b 『荒砥前田Ⅱ遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009c 『上ノ台遺跡（2）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010a 『上白井西伊熊遺跡－旧石器時代編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010b 『上武道路・旧石器時代遺跡群（2）』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010c 『中郷遺跡（2）－旧石器・縄文時代編－』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010d 『八ヶ入遺跡』

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010e 『萩原遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010f 『米山遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012a 『上武道路・旧石器時代遺跡群（3）』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012b 『中西原遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013a 『上細井蟬山遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013b 『堤遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015a 『石神遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015b 『田谷遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015c 『新田上遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2016 『今宮遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2019 『武井峯岸 V 遺跡』
- 群馬県史編さん委員会 1988 『群馬県史 資料編 1 原始古代 1』群馬県
- 慶応義塾藤沢校地埋蔵文化財調査団 1993 『湘南藤沢キャンパス内遺跡 1：湘南藤沢キャンパス内遺跡』
- 下司信夫・大石雅之 2011 「榛名火山の後期更新世及び完新世堆積物から得られた炭素 14 年代」『地質調査研究報告』 62-3 pp177-183 産業技術総合研究所地質調査総合センター
- 建設省土木研究所砂防研究室 1991 「堆積物の年代測定結果」『浅間山火山泥流災害調査報告書』 pp42-43
- 県立しらがね学園遺跡調査会 1998 『吾妻遺跡』
- 小金井市遺跡調査会 1989 『野川中州北遺跡－自然科学分析編－』
- 小暮岳実 2011 「荒川低地へ向かった後期完新世の利根川旧流路－妻沼低地における旧流路の復元－」『地学雑誌』 120 pp585-598 東京地学協会
- 小菅将夫 1994 「II 期－ BP 降下期のナイフ形石器文化－」『第 2 回岩宿フォーラム 群馬の岩宿時代の変遷と特色』 pp30-32 岩宿フォーラム実行委員会
- 小菅将夫 2000 「環状ブロック群の構造」『考古学ジャーナル』 465 pp25-28 ニューサイエンス社
- 小菅将夫 2002 「岩宿 II 遺跡第 3 次調査」『第 8 回 石器文化研究交流会－発表要旨－』 pp43-45 石器文化研究会
- 小菅将夫 2004 「馬見岡遺跡第 12 次調査」『第 10 回 石器文化研究交流会－発表要旨－』 pp23-26 石器文化研究会
- 小菅将夫 2008 「北関東地方における岩宿時代の層位と文化層」『考古学リーダー 14 後期旧石器時代の成立と古環境復元』 pp94-106 六一書房
- 小菅将夫 2013 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える（2）」『概報 武井遺跡群 III』 pp30-31 武井遺跡群調査団
- 小菅将夫 2014 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える（3）－赤城火山の地形発達史と武井遺跡－」『概報 武井遺跡群 IV』 pp34-35 武井遺跡群調査団
- 小菅将夫・大工原豊・麻生敏隆 2004 『群馬の旧石器』みやま文庫
- 小菅将夫・中島誠・軽部達也 1996 「北関東地方」『石器文化研究』 5 pp101-114 石器文化研究会
- 小菅将夫・西井幸雄 2010 「三 関東地方北部」『講座 日本の考古学 1 旧石器時代 上』 pp354-380 青木書店
- 小平市鈴木遺跡調査会 1980 『鈴木遺跡 II』
- 五反田克也 2004 「バイオーム考古学－植生景観と考古学」『環境考古学ハンドブック』 pp205-215 朝倉書店

- 小林達雄・小田静夫・羽鳥謙三・鈴木正男 1971「野川先土器時代遺跡の研究」『第四紀研究』10(4)
pp231-252 第四紀学会
- 子持村誌編さん委員会 1987『子持村誌 上巻』子持村
- 金剛萱遺跡研究会 2016「金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化」『下仁田町自然史館研究報告』1 pp 1-20 下仁田町自然史館
- 金剛萱遺跡研究会 2019「金剛萱遺跡の旧石器4－2017・2018－」『下仁田町自然史館研究報告』4 pp37-44 下仁田町自然史館
- 近藤洋一 2005「ナウマンゾウ研究と課題」『化石研究会会誌』38 pp110-115 化石研究会
- 酒井忠一・加藤稔 1971『越中山遺跡の研究・序説』朝日村教育委員会
- 阪口豊 1959「尾瀬ヶ原古期泥炭層－晩水期 (Sp?glazialzeit) の堆積物－」『第四紀研究』1 pp155-164 第四紀学会
- 阪口豊 1989『尾瀬ヶ原の自然史－景観の秘密をさぐる－』中公新書
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1984『明花向・明花向上ノ台・井沼方馬堤・とうのこし』
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1996『新屋敷遺跡 C 区』
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997『滝の宮坂遺跡』
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998『新屋敷遺跡 D 区』
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2009『清河寺前原遺跡』
- 佐久市教育委員会 2006『細石刃石器群・駒込頁岩原産地遺跡 天神小根遺跡』
- 桜井美枝 2005「波志江西宿遺跡旧石器時代遺物の再検討」『研究紀要』23 pp1-10 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 佐瀬隆 2013「日本列島における最終間氷期以降のササの変遷」『森林科学』69 pp9-12 日本森林学会
- 佐瀬隆・町田洋・細野衛 2008「相模野台地，大磯丘陵，富士山東麓の立川－武蔵野ローム層に記録された植物珪酸体群集変動－酸素同位体ステージ 5.1 以降の植生・気候・土壌史の解説－」『第四紀研究』47(1) pp1－14 第四紀学会
- 佐藤興平・南雅代・中村俊夫・柴田賢・児嶋美穂・武者巖 2018「木片の 14C 年代測定による前橋泥流堆積時期の再検討（予察）」『群馬県立自然史博物館研究報告』22 pp95-101 群馬県立自然史博物館
- 佐藤興平・南雅代・中村俊夫・柴田賢・安部久・武者巖・池田信二 2019「火山泥流に含まれる 14C 不一致年代：前橋泥流と塚原泥流の例」『群馬県立自然史博物館研究報告』23 pp57-64 群馬県立自然史博物館
- 佐藤興平・南雅代・柴田賢・武者巖 2020「巨石の Sr 同位体比と埋没木片の 14C 年代からみた前橋泥流」『群馬県立自然史博物館研究報告』24 pp31-42 群馬県立自然史博物館
- 佐藤達夫 1969「ナイフ形石器の編年的一考察」『東京国立博物館紀要』5 pp23-61 東京国立博物館
- 佐藤宏之 1988「台形様石器研究序論」『考古学雑誌』73-3 pp1-37 日本考古学会
- 佐藤宏之 1990「後期旧石器時代前半期石器群構造の発生と成立」『法政考古学』15 pp1-42 法政考古学会
- 佐藤宏之 1991a「東北日本の台形様石器」『研究論集』10 pp3-48 東京都埋蔵文化財センター
- 佐藤宏之 1991b「日本列島内の様相と対比－2 極構造論の展開－」『石器文化研究』3 pp129-140 石器文化研究会
- 佐藤宏之 1992a『日本旧石器文化の構造と進化』柏書房
- 佐藤宏之 1992b「北方系削片系細石器石器群と定住化仮説－関東地方を中心に－」『法政大学大学院紀要』29 pp55-83 法政大学大学院
- 佐藤宏之 1995「技術的組織・変形論・石材受給－下総台地後期旧石器時代の社会生態学的考察－」『考古学

- 研究』42-1 pp27-54 考古学研究会
- 佐藤宏之 1996 「社会構造」『石器文化研究』5 pp329-340 石器文化研究
- 佐藤宏之 1997 「日本旧石器時代研究と居住形態論」『住の考古学』pp2-12 同成社
- 佐藤宏之 1998 「後期旧石器人の社会はどう変化したか」『科学』68-4 pp337-344 岩波書店
- 佐藤宏之 2002 「日本 考古 一」『史学雑誌 2001 年の歴史世界—回顧と展望—』111-5 pp11-16 史學會
- 佐藤宏之 2004 「末野と正面ヶ原D」『山下秀樹氏追悼論集』pp25-33 山下秀樹氏追悼論集刊行会
- 佐藤宏之 2006 「環状集落の社会生態学」『旧石器研究』2 pp47-54 日本旧石器学会
- 佐藤宏之 2007 「第1章 分類と型式」『ゼミナール 旧石器考古学』pp15-31 同成社
- 佐藤宏之 2009 「地考古学が日本考古学に果たす役割」『第四紀研究』48 (2) pp77-83 第四紀学会
- 佐藤宏之 2010a 「旧石器時代研究の歴史」『講座日本の考古学 旧石器時代 上』pp40-73 青木書店
- 佐藤宏之 2010b 「東アジアにおける削片系細石刃石器群の伝播」『比較考古学の地平』pp895-904 同成社
- 佐藤宏之 2011 「荒川台型細石刃石器群の形成と展開—稜柱系細石刃石器群の生成プロセスを展望して—」『考古学研究』58-3 pp51-68 考古学研究会
- 佐藤宏之 2016 「更新世の日本列島における自然・資源環境の変動と人類行動の応答」『考古学は科学か 田中良之先生追悼論文集』pp199-214 中国書店
- 佐藤宏之・山田哲・出穂雅実 2011 「旧石器時代の狩猟と動物資源」『野と原の環境史』pp51-71 文一総合出版
- サーリンズ, M., E. サーヴィス 山田隆治 訳 1976 『進化と文化』新泉社
- 佐野勝宏 2017 「狩猟具の発達とその進化・行動論的意義」『日本旧石器学会第15回研究発表・シンポジウム予稿集 使用痕分析を統合した行動研究の展開』pp65-67 日本旧石器学会
- 佐野市教育委員会 2004 『上林遺跡』
- 澤口宏 1979 「日高遺跡の地形環境」『日高遺跡 (I)』pp4-8 高崎市教育委員会
- 澤口宏 1982 「日高遺跡付近の地形」『日高遺跡』pp305-316 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 澤口宏 1995 「第1章 地形・地質」『群馬町誌 資料編4 自然』pp3-40 群馬町誌編纂委員会
- 澤口宏 2013 「桐生・伊勢崎・前橋周辺の流れ山」『良好な自然環境を有する地域 学術調査報告書』38 pp79-84 群馬県立自然史博物館
- 澤口宏 2014a 「序章 大間々扇状地—社会基盤としての自然環境—」『大間々扇状地—人と自然のかかわり—』pp3-31 みやま文庫
- 澤口宏 2014b 「前橋台地の利根川」『良好な自然環境を有する地域 学術調査報告書』40 pp109-119 群馬県立自然史博物館
- 澤口宏 2015 「前橋台地の利根川 その2」『良好な自然環境を有する地域 学術調査報告書』41 pp3-9 群馬県立自然史博物館
- 山武考古学研究所 1985 『関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 酒々井町 2019 『墨古沢遺跡総括報告書—下総台地に現存する日本最大級の旧石器時代環状ブロック群—』
- 下岡順直 2016 「浅間板鼻褐色軽石群と前橋泥流の年代観—放射性炭素年代を中心に—」『岩宿フォーラム 2016 ナイフ形石器文化の発達期と変革期—浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群—』pp20-26 岩宿フォーラム実行委員会
- 下岡順直 2018 「自然科学(年代測定・古環境復原)と旧石器時代研究」『考古学ジャーナル』708 pp11-15 ニューサイエンス社
- 下岡順直・菅原久誠・早田勉・宮沢竜一・能登健 2019 「群馬県前橋市に所在する「岩神の飛石」の熱ルミネッセンス年代測定」『地球環境研究』21 pp119-123 地球環境研究センター

- 渋川市 2015 『八崎日影山遺跡・分郷八崎上浅ヶ原遺跡』
- 島田和高 1999 「中部日本南部における旧石器地域社会の一様相—砂川期における地区の成り立ちと地域の構造—」『駿台史学』102 pp1-49 駿台史学会
- 島田和高 2011 「後期旧石器時代前半期における環状ブロック群の多様性と現代人の拡散」『資源環境と人類』1 pp 9-26 明治大学黒曜石研究センター
- 島田和高 2015 「上部旧石器時代における中部高地黒曜石産地の土地利用変化」『第四紀研究』54 (5) pp219-234 第四紀学会
- 島田和高 2016 「中部高地における景観変遷と後期旧石器時代の黒曜石獲得活動」『長野県中部高地における先史時代人類誌 広原遺跡群第1次～第3次調査報告書』pp329-338 明治大学黒曜石研究センター
- 下仁田町遺跡調査会 1997 『下鎌田遺跡』
- 昭和村教育委員会 1985 『中棚遺跡—長井坂城跡—』
- 白石浩之 1983 「考古学と火山灰層序—特に関東地方を中心とした旧石器時代の層位的出土例と石器群の様相—」『第四紀研究』23 (3) pp185-198 第四紀学会
- 白石浩之 1986 「ナイフ形石器文化終末期の様相—相模野台地の茂呂型ナイフ形石器について—」『神奈川考古』22 pp1-21 神奈川考古同人会
- 白石浩之 1992 「旧石器時代後期から縄文時代草創期の集落」『かながわの考古学』2 pp1-14 神奈川県埋蔵文化財センター
- 白石浩之 1993 「いわゆる砂川期の再検討」『國學院大學考古学資料館紀要』10 pp1-26 國學院大學考古学資料館
- 須貝俊彦・松島(大上) 紘子・水野清秀 「過去40万年間の関東平野の地形発達史—地殻変動と氷河性海水準変動の関わりを中心に—」『地学雑誌』122 (6) pp921-948 東京地学協会
- 杉田真哉・高原光 2001 「四次元生態学としての古生態学が森の動態を画きだす」『科学』77 pp77-85 岩波書店
- 勢藤力 2001 「書上遺跡」『第7回 石器文化研究交流会—発表要旨—』pp 1-4 石器文化研究会
- 勢藤力 2009 「峯岸山遺跡V」『石器文研究』15 pp71-74 石器文化研究会
- 杉原荘介 1950 「群馬県新田郡藪塚遺跡」『日本考古学年報』3 pp27-29 日本考古学協会
- 杉原荘介 1953 「日本における石器文化の階梯について」『考古学雑誌』39-2 pp21-25 日本考古学協会
- 杉原荘介 1955 「群馬懸武井遺跡における石器文化」『日本考古学協会集報』別冊4 p2 日本考古学協会
- 杉原荘介 1956 『群馬県岩宿発見の石器文化』明治大学
- 杉原荘介 編 1965 『日本の考古学I 先土器時代』河出書房新社
- 杉原荘介 1977 『群馬県武井における二つの石器文化』明治大学文学部考古学研究室
- 杉原荘介・吉田格・芹沢長介 1959 「東京都茂呂における関東ローム層中の石器文化」『駿台史学』9 pp84-104 駿台史学会
- 杉山真二 1993 「前橋泥炭層の植物珪酸体群集」『植生史研究』1 (2) pp71-72 日本植生史学会
- 杉山真二 2001 『古環境復原に向けた植物珪酸体分析法の確立と応用に関する研究』東京工業大学大学院博士論文
- 杉山真二・早田勉 1996 「植物珪酸体分析による宮城県高森遺跡とその周辺の高更新世以降の氷期—間氷期サイクルの検討—」『第四紀学会講演要旨集』26 pp126-127 第四紀学会
- 鈴木暁 1999 「新潟県新発田市坂ノ沢C遺跡」『第12回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』pp39-48 東北日本の旧石器文化を語る会

- 鈴木毅彦 1990 「テフロクロノロジーからみた赤城火山最近 20 万年間の噴火史」『地学雑誌』 99-2 pp60-75
東京地学協会
- 鈴木正男 1975 「フィッション・トラック」『日本の旧石器文化 1 総論編』 pp138-157 雄山閣
- 鈴木正章・吉川昌伸・遠藤邦彦・高野司 1993 「茨城県桜川低地における過去 32,000 年間の環境変遷」『第四紀研究』 32 (4) pp195-208 第四紀学会
- 鈴木次郎・矢島国雄 1978 「先土器時代の石器群とその編年」『日本の考古学を学ぶ』 1 pp154-182 有斐閣
- 鈴木次郎 1986 「ナイフ形石器の終末と槍先形尖頭器石器群の出現—相模野第 IV 期石器群の構造的な理解—」『神奈川考古』 22 pp79-102 神奈川考古同人会
- 鈴木次郎 1996 「II 石器群の様相」『研究紀要 1 かながわの考古学』 pp15-18 かながわ考古学財団
- 鈴木尚史 2003 「槍先形尖頭器の出現と変遷—相模野台地を中心に—」『駿台史学』 118 pp59-80
- 須藤定久・田島順子・木崎喜雄 1976 「群馬県太田～大間々地域の第三紀火砕岩類」『地率學論集』 13
pp241-249 日本地質学会
- 須藤隆司 1986 「群馬県藪塚遺跡の石器文化—ナイフ形石器の型式学的考察—」『館報』 2 pp27-50 明治大学
考古学博物館
- 須藤隆司 1991 「先土器時代集落の成り立ち」『信濃』 43-4 pp1-24 信濃史学会
- 須藤隆司 2017 「石刃技術革新—日本列島における「真正な」石刃技術の成立過程」『理論考古学の実践 II 実践編』
pp91-115 同成社
- 諏訪市史編纂委員会 編 1986 『諏訪市史 上巻 原始・古代』諏訪市
- 諏訪間順 1988 「相模野台地における石器群の変遷について—層位的出土例の検討による石器群の段階的把握—」『神奈川考古』 24 pp1-30 神奈川考古同人会
- 諏訪間順 1995 「南関東地方 AT 上位石器群の変遷」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』 pp341-359
静岡県考古学会
- 諏訪間順 2019 『相模野台地の旧石器考古学』新泉社
- 諏訪間順・堤隆 1985 「神奈川県大和市神奈川県大和市深見諏訪山遺跡第 IV 文化層の石器群について」『旧石器考古学』 30 pp85-108 旧石器文化談話会
- 関口博幸 2007 「赤城山南麓の有樋尖頭器石器群—黒曜石製東内野型尖頭器石器群の抽出—」『研究紀要』 25
pp15-26 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 関口博幸 2008 「後期旧石器時代における前橋泥流をめぐる遺跡形成史」『岩宿フォーラム 2008 更新世の地形
発達史と遺跡群の形成』 pp36-43 岩宿フォーラム実行委員会
- 関口博幸 2010a 「群馬県太田市八ヶ入遺跡出土の削片系細石刃石器群」『旧石器研究』 6 pp119-127 日本旧石器
学会
- 関口博幸 2010b 「群馬県内出土の黒曜石製男女倉型有樋尖頭器の原産地分析と運搬形態の推定」『研究紀要』
28 pp17-32 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 関口博幸 2013 「武井遺跡における槍先形尖頭器石器群」『岩宿フォーラム 2013 槍先形尖頭器文化の大規模遺
跡と遺跡の広がり—武井遺跡発掘 60 周年—』 pp31-38 岩宿フォーラム実行委員会
- 関口博幸・麻生敏隆 2007 「関東地方北西部における火山災害と遺跡分布の関係」『多摩川流域の考古学的遺跡の
成立と古環境復元シンポジウム「土と遺跡 時間と空間 予稿集」』 pp49-54 多摩川流域の考古学的遺跡の
成立と古環境復元研究会
- 関口博幸・麻生敏隆 2008 「関東地方北西部における火山災害と遺跡分布の関係」『考古学リーダー 14 後期
旧石器時代の成立と古環境復元』 pp161-171 六一書房

- 関口博幸・勢藤力 2004 「武井遺跡における槍先形尖頭器の全体像」『第12回岩宿フォーラム 武井遺跡の槍先形尖頭器』 pp18-24 岩宿フォーラム実行委員会
- 関口博幸・早田勉・下岡順直 2011 「群馬の旧石器編年のための基礎的研究－関東地方北西部における石器群の出土層位、テフラ層序、通知年代の整理と検討－」『研究紀要』 29 pp1-20 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 石器文化研究会 1989 『石器文化研究 1 AT 降灰以前の石器文化』
- 石器文化研究会 1990 『石器文化研究 2 AT 降灰以前の石器文化』
- 石器文化研究会 1991 『石器文化研究 3 AT 降灰以前の石器文化－関東地方における変遷と列島内対比－』
- 芹沢長介 1956 「日本に於ける無土器文化」『人類学雑誌』 64-3 pp
- 芹沢長介 1959 「新潟県荒屋遺跡における細石刃文化と荒屋形彫刻刀について（予報）」『第四紀研究』 1-5 pp174-181 日本第四紀学会
- 芹沢長介 1957 『先史時代（1）－無土器文化－』日本評論新社
- 芹沢長介 1962 「旧石器研究の諸問題」『日本歴史』 1 pp77-108 岩波書店
- 芹沢長介 1967 「日本の旧石器（4）」『考古学ジャーナル』 4 pp7-15 ニューサイエンス社
- 芹沢長介 1977 『磯山』東北大学文学部考古学研究室
- 早田勉 1990 「群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編 1』 pp37-129 群馬県
- 早田勉 1996 「関東地方～東北地方南部の指標テフラの諸特徴－とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて－」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』 7 pp256-267 名古屋大学
- 早田勉 2000 「火山活動の影響を受けた利根川扇状地の地形」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』 pp191-194 東京大学出版会
- 早田勉 2003 「火山灰の風土」『新編高崎市史通史編 1』 pp39-54 高崎市史編さん委員会
- 早田勉 2008a 「群馬県伊勢崎市前道下遺跡とその周辺の地形と地質」『前道下遺跡（2）－旧石器時代編－』 pp181-193 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 早田勉 2008b 「IV 成果と展望 討論」『考古学リーダー 14 後期旧石器時代の成立と古環境復元』 pp183-200 六一書房
- 早田勉 2011 「榛名地域の自然環境とその歴史」『榛名町誌 通史編上巻』 pp7-56 榛名町誌編さん委員会
- 早田勉 2016 「浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group）の層序と前橋泥石流堆積物の層位」『岩宿フォーラム 2016 ナイフ形石器文化の発達期と変革期－浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群－』 pp6-14 岩宿フォーラム実行委員会
- 早田勉・下岡順直・若井明彦 2016 「浅間板鼻褐色軽石群に含まれる火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性に関する新資料」『岩宿フォーラム 2016 ナイフ形石器文化の発達期と変革期－浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群－』 pp15-19 岩宿フォーラム実行委員会
- 早田勉 2019 「北関東地方西部における旧石器時代の火山噴火と環境変化」『岩宿フォーラム 2019 岩宿遺跡と日本列島の旧石器時代研究』 pp19-25 岩宿フォーラム実行委員会
- 大工原豊 1990 「AT 下位の石器群の遺跡構造分析に関する一試論（1）群馬県下の AT 下位石器群の遺跡のあり方を中心として」『旧石器考古学』 41 pp1-41 石器文化談話会
- 大工原豊 1991 「AT 下位の石器群の遺跡構造分析に関する一試論（2）群馬県下の AT 下位石器群の遺跡のあり方を中心として」『旧石器考古学』 42 pp33-40 石器文化談話会
- 高乗裕司・姉崎智子・木村敏之 2007 「群馬県上野村不二洞産のヒグマ化石」『群馬県立自然史博物館研究報告』 11 pp63-72 群馬県立自然史博物館
- 高崎市教育委員会 2002 『高崎情報団地Ⅱ遺跡《縄文時代編》』
- 高橋啓一 2007 「日本列島の鮮新・更新世における陸生哺乳動物相の形成過程」『旧石器研究』 3 pp5-14 日本旧石器学会
- 高橋啓一 2013 「日本のゾウ化石, その起源と移り変わり」『豊橋市自然史博物館報』 23 pp65-73 豊橋市自然史博物館
- 高橋啓一・神谷英利・黒岩俊明・小林将喜・山岸勝治・磯田喜義・中島啓治・田中宏之 1981 「群馬県嬭恋産

- のゾウ化石、および産出地の地質について」『群馬県立歴史博物館紀要』2 pp1-23 群馬県立歴史博物館
- 高原光 2007a 「花粉分析による植生復元と気候復元」『低温科学』65 pp97-102 北海道大学低温科学研究所
- 高原光 2007b 「第四紀の氷期・間氷期変動に対する植生変遷」『哺乳類科学』47 (1) pp101-106 日本哺乳類学会
- 高原光 2010 「植生の変化を復元するための時間・空間スケール」『第四紀研究』49 (3) pp181-188 第四紀学会
- 高原光 2011 「日本列島とその周辺域における最終間氷期以降の植生史」『環境史をとらえる技法』pp15-43 文一総合出版
- 高屋敷飛鳥 2013 「旧石器時代環状ブロック群の研究動向」『古代文化』65- 1 pp122-129 古代学協会
- 高屋敷飛鳥 2019 「相模野台地における砂川期」『砂川遺跡－旧石器時代研究の過去・現在・未来－』pp24-29 明治大学黒曜石研究センター
- 竹本弘幸 1999 『北関東北西部地域における第四紀古環境変遷と火山活動』茨城大学博士学位論文(甲)
- 竹本弘幸 2008a 「吉田論文(2004)「浅間火山を起源とする泥流堆積物とその関東平野北西部の地形発達に与えた影響」の問題点」『地理学評論』81-6 pp506-515 日本地理学会
- 竹本弘幸 2008b 「利根川中一上流域の段丘」『日本地方地質誌3 関東地方』pp352-365 朝倉書店
- 竹本弘幸・久保誠二 1995 『群馬の火山灰』みやま文庫
- 竹本弘幸・久保誠二 2003 「浅間火山、応桑岩屑なだれ堆積物のテフラ層序」『日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要』38 pp55-64 日本大学文理学部自然科学研究所
- 田代治 1997 「大宮台地の概要」『埼玉考古』別冊5 pp7-13 埼玉考古学会
- 建石徹・菅頭明日香・津村宏臣・二宮修治 2004 「武井遺跡出土黒曜石製槍先形尖頭器の原産地推定」『第12回岩宿フォーラム 武井遺跡の槍先形尖頭器』pp25-34 岩宿フォーラム実行委員会
- 建石徹・三浦麻衣子・二宮修治 2010 「群馬県内出土石器群の黒曜石原産地同定」『岩宿フォーラム2010 北関東地方の石器文化の特色』pp35-40 岩宿フォーラム実行委員会
- 建石徹・飯田茂雄・小菅将夫・加部二生・二宮修治 2013 「広間地西遺跡出土黒曜石資料の産地分析」『岩宿フォーラム2013 槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり－武井遺跡発掘60周年－』pp90-92 岩宿フォーラム実行委員会
- 田中英司 1979 「武蔵野台地Ib期前半の石器群と砂川期の設定について」『神奈川考古』7 pp75-88 神奈川考古同人会
- 田中英司 1980 「2 尖頭器の共存について」『神奈川考古』8 pp117-122 神奈川考古同人会
- 田中英司 1984 「砂川型式期石器群の研究」『考古学雑誌』69-4 pp 1-33 日本考古学会
- 田中英司 1993 「旧石器時代の遺跡」『中川水系 人文』pp5-15 埼玉県
- 田中宏之・中島孝守・磯田善義・山岸勝治 1980 「群馬県高崎市南部群馬の森の地質と材・花粉・珪藻化石」『群馬県立歴史博物館紀要』1 pp69-100 群馬県立歴史博物館
- 玉川文化財研究所 2019 『西富岡・長竹遺跡第3次調査』
- 田村隆 1989 「二項的モードの推移と巡回－東北日本におけるナイフ形石器群成立期の様相－」『先史考古学研究』2 pp1-52 阿佐ヶ谷先史学研究会
- 田村隆 1992 「遠い山・黒い石－武蔵野II期石器群の社会生態学的一考察－」『先史考古学論集』2 pp1-46 安齋正人編
- 田村隆 1994 「型式学・様式論・記号学」『古代文化』46 pp1-18 古代学協会
- 田村隆 1998 「移行の理論－石器群のデザイン分析と文化＝社会理論－」『先史考古学論集』7 pp1-48 安齋正人編
- 田村隆 2001 「重層的二項性と交差変換－端部整形石器範疇の検出と東北日本後期旧石器石器群の生成－」『先史考古学論集』10 pp1-50 安齋正人編集
- 田村隆 2004 「下野－北総回廊をめぐる細石器石器群の生態学的一考察」『日本の細石刃文化III－細石刃文化研究の諸問題－』pp52-65 八ヶ岳旧石器研究グループ
- 田村隆 2011 『旧石器社会と日本民俗の基層』同成社

- 田村隆 2012 「ゴミ問題の発生」『物質文化』92 pp1-37 物質文化研究会
- 田村隆 2015 「まれびとの訪い」『考古学研究』61-4 pp24-44 考古学研究会
- 田村隆・国武貞克 2006 「高原山黒曜石原産地遺跡群の発見」『旧石器研究』2 pp93-110 日本旧石器学会
- 田村隆・国武貞克・吉野真如 2004 「旧石器時代石器石材写真集」『千葉県の歴史 資料編：考古4』
pp1320-1426 千葉県史料研究財団
- 千葉県文化財センター 1986 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Vー谷・上貝塚・若葉台・塚(1)・(2)・馬土
手(1)・(2)・(3)ー』
- 千葉県文化財センター 1989 『八千代市仲ノ台遺跡・芝山遺跡』
- 月夜野町教育委員会 1986a 『善上遺跡』
- 月夜野町教育委員会 1986b 『三峰神社裏遺跡 大友館址遺跡』
- 辻誠一郎 1987 「最終間氷期以降の植生史と変化様式ー将来予測に向けてー」『百年・千年・万年後の日本の自
然と人類』pp157-183 古今書院
- 辻誠一郎 1991 「自然と人間ーAT前後の生態系をめぐる諸問題ー」『石器文化研究』3 pp225-229 石器文化
研究会
- 辻誠一郎 1992 「東京都調布の後期更新世野川泥炭層から産した花粉化石群」『植生史研究』1-1 pp21-26 日本
植生史学会
- 辻誠一郎 2001 「21世紀の年代観ー炭素年から暦年へ」『第四紀研究』40(6) pp433-434 第四紀学会
- 辻誠一郎 2005 「更新世と完新世の植物」『日本の考古学 上』pp62-68 学生社
- 辻誠一郎・木越邦彦 1992 「前橋泥炭層の放射年代」『植生史研究』1-1 pp27-28 日本植生史学会
- 辻誠一郎・南木睦彦・鈴木三男 1984 「栃木県南部, 二宮町における立川期の植物遺体群集」『第四紀研究』
23(1) pp21-29 第四紀学会
- 辻誠一郎・宮地直道・新井房夫 2004 「南軽井沢地域の浅間火山テフラ層序と編年ー環境・災害史研究の基礎
としてー」『国立歴史民俗博物館研究報告』118 pp165-192 国立歴史民俗博物館
- 辻誠一郎・吉川昌伸・吉川純子・熊城修一 1985 「前橋台地における更新世末期から完新世初期の植物化石群
集と植生」『第四紀研究』23(4) pp263-269 第四紀学会
- 津島秀章 1999 「石器石材と遺跡構造ー石器石材からみる環状ブロック群の構造ー」『研究紀要』17 pp1-12 群
馬県埋蔵文化財調査事業団
- 津島秀章 2004 「石器石材の補給構造」『ぐんま史料研究』22 pp1-16 群馬県立文書館
- 津島秀章 2007 「二立散石ー石器原産地分析からみた環状ブロック群の構造ー」『研究紀要』25 pp1-14 群馬県
埋蔵文化財調査事業団
- 津島秀章 2008 「チャートをめぐる石材環境ー赤城山南麓地域のチャート露頭」『研究紀要』26 pp119-130
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 津島秀章 2016 「山に行くヒトー領域の拡大と石材の獲得ー」『研究紀要』34 pp1-16 群馬県立埋蔵文化財調査
事業団
- 津島秀章・岩崎泰一 2010 「武尊山産黒色安山岩の消長ー石器資源の動的理解に向けてー」『研究紀要』28
pp1-16 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 堤隆 1988 「槌状剥離を有する石器の再認識(上)ー男女倉型・東内野型等と呼称されるある種の石器をめぐ
ってー」『信濃』40-4 pp378-399 信濃史学会
- 堤隆 1989 「槌状剥離を有する石器の再認識(下)ー男女倉型・東内野型等と呼称されるある種の石器をめぐ
ってー」『信濃』41-5 pp378-403 信濃史学会
- 堤隆 2003 「後期旧石器時代の石器群と寒冷環境への適応戦略」『第四紀研究』42(3) pp205-218 第四紀学会
- 津村義彦・百原新 2011 「植物化石とDNAからみた温帯性樹木の最終氷期最盛期のレフュージア」『環境史を
とらえる技法』pp59-73 文一総合出版
- 鶴丸俊明 1979 「北海道地方の細石器文化」『駿台史学』pp23-50 駿台史学会
- 東京都埋蔵文化財センター 2014 『桐ヶ丘遺跡』
- 東北大学大学院文学研究科考古学研究室・川口町教育委員会 2003 『荒屋遺跡 第2・3次発掘調査報告書』

- 富樫孝志 2016 『後期旧石器時代 石器群の構造変動と居住行動』 雄山閣
- 戸沢充則 1965a 「先土器時代における石器群研究の方法」『信濃』17-4 pp1-14 信濃史学会
- 戸沢充則 1965b 「関東地方の先土器時代」『日本の考古学I 先土器時代』pp222-241 河出書房新社
- 戸沢充則 1968 「埼玉県砂川遺跡の石器文化」『考古学集刊』4-1 pp1-42 明治大学
- 戸沢充則 1990 『日本先土器時代文化の構造』同朋社出版
- 中川毅 2004 「花粉分析による定量的環境復元と考古学」『環境考古学ハンドブック』pp216-236 朝倉書店
- 中川毅 2018 『文部科学省科学研究費補助金 基礎研究 (A) 研究成果報告書 (2015-2017 年度) 水月湖と日本海の精密対比: ダンスガード・オシュガーイベントの原因論をめざして』
- 中川敦・奥田昌明・米延仁志・三好教夫・竹村恵二 2009 「琵琶湖の堆積物を用いたモンスーン変動の復元—ミランコビッチ=クズバツハ仮説の矛盾と克服—」『第四紀研究』48 (3) pp207-255 第四紀学会
- 長崎潤一 1990 「後期旧石器時代前半期の石斧—形態変化論を視点として—」『先史考古学研究』3 pp1-33 阿佐ヶ谷先史学研究会
- 中沢英俊 1989 「浅間火山のテフラ層序」『信州理科』15 pp14-16 信州理科教育研究会
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦 1984 「浅間火山、黒班期～前掛期のテフラ層序」『第四紀学会講演要旨集』14 pp69-70 第四紀学会
- 中島啓治・大沢澄可・宮崎重雄 1978 「群馬県太田市富沢よりナウマンゾウの臼歯発見」『地球科学』32-5 pp254-256 地学団体研究会
- 中島啓治・田中宏之 1983 「群馬県北部中之条湖成層産のシカ角化石について」『地球科学』37-1 pp53-55 地学団体研究会
- 那須孝悌 1985 「先土器時代の環境」『岩波講座 日本考古学』2 pp51-110 岩波書店
- 仲田大人 2007 「社会と生態」『ゼミナール 旧石器考古学』pp163-178 同成社
- 仲田大人 2016 「関東地方の旧石器・縄文移行期をめぐる問題」『旧石器研究』12 pp135-154 日本旧石器学会
- 長門町教育委員会 2001 『県道男女倉長門線改良工事に伴う発掘調査報告書—高山遺跡群第I遺跡および追分遺跡群発掘調査—』
- 長野県埋蔵文化財センター 2000 『貫ノ木遺跡・西岡 A 遺跡』
- 中村孝三郎 1971 『御淵上遺跡』長岡市立科学博物館
- 中谷進 1970 「八ヶ岳東麓のテフラ—特に八邦池軽石流を覆うテフラ層中の軽石—」『軽石学雑誌』3 pp30-35 万国軽石学会
- 中東耕志 1980 「利根郡月夜野町出土の片刃打製石斧」『群馬考古通信』7 pp15-16 群馬県考古学談話会
- 中東耕志 1982 「富岡市上黒岩出土のオオツノシカー出土記録を中心として—」『群馬県歴史博物館紀要』3 pp141-162 群馬県立歴史博物館
- 中東耕志・飯島静男 1984 「群馬県における旧石器・縄文時代の石器石材—黒色頁岩と黒色安山岩—」『群馬県立歴史博物館年報』5 pp28-36 群馬県立歴史博物館
- 中村庄八・久保誠二・山岸勝治ほか 2005 「表層地質図」『土地分類基本調査「榛名山」5万分の1図幅』pp13-32 群馬県農業局農業基盤整備課編
- 中村俊夫 2001 「放射性炭素年代とその高精度化」『第四紀研究』40 (6) pp445-459 第四紀学会
- 中村俊夫・辻誠一郎・竹本弘幸・池田晃子 1997 「長野県、南軽井沢周辺の更新世最末期の浅間テフラ層の加速器 14C 年代測定」『地質学雑誌』103-10 pp990-993 日本地質学会
- 中村正芳 2003 「高崎の台地をつくる地層」『新編 高崎市史 通史編1』pp73-100 高崎市
- 中村雄紀 2012 「愛鷹・箱根山麓の後期旧石器時代前半期前葉の石器群の編年」『旧石器研究』8 pp102-122 日本旧石器学会
- 中村雄紀 2014 「関東地方における旧石器時代の年代と編年」『旧石器研究』10 pp107-128 日本旧石器学会
- 長野県埋蔵文化財センター 1992 『上信自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書1 下茂内遺跡』
- 長野県埋蔵文化財センター 2001 『香坂山遺跡』
- 長野県埋蔵文化財センター 2012 『南曾峯遺跡』
- 新里村教育委員会 2002 『新里村不二山遺跡発掘調査報告』

- 新里村教育委員会 2005 『山上城跡 IX 石山 II 遺跡』
- 西井幸雄 1991 「南関東地方における武蔵野台地第 IV 下層～第 VI 層のナイフ形石器」『埼玉考古学論集：設立 10 周年記念論文集』 pp63-89 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 西井幸雄 1996 「V～IV 下層段階の細分」『石器文化研究』 5 pp341-352 石器文化研究会
- 西井幸雄 2001 「新屋敷遺跡出土石器の再検討」『第 7 回石器文化研究交流会発表要旨』 pp31-38 石器文化研究会
- 西井幸雄 2004 「大宮台地における石器群の変遷」『山下秀樹氏追悼考古論集』 pp75-84 山下秀樹氏追悼論文集刊行会
- 西内李佳 2017 『最終氷期最寒冷期の本州中部から西部の森林植生の標高・地形分布』千葉大学審査学位論文
- 西内李佳・百原新・遠藤邦彦・大里重人・沖津進 2015 「最終氷期最寒冷期末期の北関東丘陵域における古植生分布—宇都宮市中里の植物化石群からの復元—」『第四紀研究』 54 (4) pp185-201 第四紀学会
- 新田浩三 1995 「下総型石刃再生技法の提唱」『研究紀要』 16 pp1-40 千葉県文化財センター
- 新田町教育委員会 1996 『中江田遺跡群 花園遺跡』
- 新田町教育委員会 1997 『中江田遺跡群 中江田宿通遺跡・中江田本郷遺跡・中江田原遺跡・中江田 A 遺跡』
- 新田町誌編さん室 編 1987 『新田町誌 第二巻 資料編 (上) 原始・古代 中世 近世』新田町誌刊行委員会
- 日本旧石器学会 2005 『日本旧石器学会第 3 回講演・研究発表シンポジウム予稿集 環状集落—その機能と展開をめぐる—』日本旧石器学会
- 日本旧石器学会 2010 『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器 (先土器・岩宿) 時代遺跡のデータベース—』
- 日本旧石器学会 2013 『日本旧石器学会第 11 回講演・研究発表・シンポジウム予稿集 旧石器時代の年代と広域編年対比』
- 日本旧石器学会 2015 『日本旧石器学会第 13 回研究発表・シンポジウム予稿集 更新世末の東北日本における環境変動と人類活動』
- 日本考古学協会 2011 年度栃木大会実行委員会 2011 『同大会 研究発表資料集』
- 日本考古学協会 2013 年度栃木大会実行委員会 2013 『同大会 研究発表資料集 文化の十字路口信州』
- 日本考古学協会 2018 年度静岡大会実行委員会 2018 『同大会 研究発表資料集 境界の考古学』
- 楡井尊 2018 「埼玉県鶴ヶ島市における約 2 万年前以降の花粉層序と古気候変動」『埼玉県自然の博物館研究報告』 12 pp1-16 埼玉県自然の博物館
- 楡井尊・林成多 2004 「群馬県高崎市の上部更新統前橋泥炭層の花粉化石群集と古気候変動」『自然環境科学研究』 17 pp43-49 平岡環境科学研究所
- 沼田市教育委員会 2003 『日影平遺跡』
- 練馬区遺跡調査会 1992 『愛宕下遺跡 調査報告書』
- 野口淳 1995 「武蔵野台地 IV 下・V 上層段階の遺跡群」『旧石器考古学』 51 pp19-36 旧石器文化談話会
- 野口淳 2007 「遺跡の空間分析」『ゼミナール 旧石器考古学』 pp91-109 同成社
- 萩谷千明 1995 「清水遺跡第 2 地点」『第 3 回石器文化研究交流会—発表要旨—』 pp 4-7 石器文化研究会
- 橋本勝雄 1989 「東日本の細石器文化—東北・北陸・中部高地・関東・東海地方の研究の動向—」『考古学ジャーナル』 306 pp12-21 ニューサイエンス社
- 橋本勝雄 1998 「関東細石器考」『千葉県立中央博物館研究報告』 5-2 pp117-135 千葉県立中央博物館
- 橋本勝雄 2006 「環状ユニットと石斧の関わり」『旧石器研究』 2 pp35-46 日本旧石器学会
- 橋本勝雄 2010 「一 ナイフ形石器文化前半期の居住様式」『講座日本の考古学 2 旧石器時代 (下)』 pp229-251 青木書店
- 橋本勝雄 2017 「東日本における国府系石器群の地域的様相—関東地方を中心として—」『考古学ジャーナル』 698 pp10-14 ニューサイエンス社
- 橋本勝雄・須田良平 1987 「旧石器時代」『考古学ジャーナル』 277 pp 5-28 ニューサイエンス社
- 長谷川善和・岡部勇・宮崎重雄・高桑祐司・木村敏之 2013 「群馬県桐生市蛇留淵洞から産出したトラとニホンザル化石」『群馬県立自然史博物館研究報告』 17 pp55-60 群馬県立自然史博物館
- 長谷川善和・奥村よほ子・立川裕康 2009 「栃木県葛生地域の石灰岩洞窟堆積物より産出した Bison 化石」『

- 群馬県立自然史博物館研究報告』13 pp47-52 群馬県立自然史博物館
- 早川由紀夫 1995 「浅間火山の地質見学案内」『地学雑誌』104 (4) pp561-571 日本地質学会
- 早川由紀夫 1992 「火山の地質巡検案内1：浅間山と草津白根山」『群馬大学教育学部紀要 自然科学編』40 pp65-81 群馬大学教育学部
- 早川由紀夫 2010 「浅間山の風景に書き込まれた歴史を読み解く」『群馬大学教育学部紀要自然科学編』58 pp65-81 群馬大学
- 早川由紀夫 2016 『前橋高崎地域の自然史地図』キブカスピリット
- 羽生淳子 1994 「狩猟・採集民の生業・集落と民族誌—生態学的アプローチに基づいた民族誌モデルを中心として—」『考古学研究』41(1) pp73-93 考古学研究会
- 林成多 1996 「群馬県前橋市の前橋泥炭層から産出したヨツボシクロヒメゲンゴロウとその生息環境」『第四紀研究』35 (4) pp305-312 第四紀学会
- 林成多 2005 「群馬県高崎市における前橋泥炭層の昆虫化石群集と古環境」『群馬県立自然史博物館研究報告』9 pp93-99 群馬県立自然史博物館
- 林成多・島津康行 2005 「群馬県西部、九十九川下流域における最終氷期の泥炭層の層位と昆虫化石」『群馬県立自然史博物館研究報告』9 pp101-107 群馬県立自然史博物館
- 原田恒弘・中束耕志 1984 「勢多郡富士見村龍ノ口遺跡試掘調査報告 (I)」『群馬県歴史博物館調査報告書』1 pp37-52 群馬県立歴史博物館
- 樋口和雄 1990 「浅間山活動史の研究」『千曲』66 pp15-33 東信史学会
- 平井幸弘 1986 「関東平野中央部における沖積低地の地形発達」『地理学評論』56 pp679-694 日本地理学会
- 福澤仁之 1998 「氷河期以降の気候の年々変動を読む」『科学』68-4 pp353-360 岩波書店
- 福澤仁之・斎藤耕志・藤原治 2003 「日本列島における更新世後期以降の気候変動のトリガーはなにか？」『第四紀研究』42 (3) pp165-180 第四紀学会
- 福島県文化財センター 1983 『上悪戸遺跡・下悪戸遺跡』
- 福島県文化財センター 1987 『三貫地遺跡 (原口地区)』
- 藤井理行 1998 「最終氷期における気候変動— Dansgaard-Oeschger サイクルとハインリッヒ・イベント—」『第四紀研究』37 (3) pp181-188 第四紀学会
- 藤原妃敏 1983 「東北地方における後期旧石器時代の技術基盤—石刃石器群を中心として—」『考古学論叢』I pp63-91 芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
- 藤岡市教育委員会 1978 『F1 竹沼遺跡』
- 藤岡市教育委員会 1986 『F2 緑埜地区遺跡群 I』
- 藤岡市教育委員会 1987a 『国道 254 号線埋蔵文化財発掘調査報告書 A6 白塩道南遺跡 A2 藤岡北山遺跡』
- 藤岡市教育委員会 1987b 『一級河川中川小規模河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (I)』
- 藤岡市教育委員会 1995 『A9 藤岡北山 B 遺跡』
- 藤岡市教育委員会 1998 『F26 平井城跡発掘調査報告書』
- 藤岡市教育委員会 1999 『F27 滝遺跡』
- 藤岡市教育委員会 2003 『D49 上落合上野遺跡』
- 不動穴洞窟調査団 1974 『不動穴洞窟第 1 次調査概要』
- 北橋村教育委員会 1986 『分郷八崎遺跡』
- 北橋村教育委員会 1993 『芝山遺跡』
- 北橋村教育委員会 1996 『北町遺跡・田ノ保遺跡』
- 北橋村教育委員会 2001 『銭神遺跡・箱田遺跡群補遺』
- 堀口萬吉 1981 「関東平野中央部における考古遺跡の埋没と地殻変動」『地質学論集』20 pp79-94 日本地質学会
- 堀口萬吉 1993 「第 3 節 流域の変遷 2 台地の形成とその変遷」『中川水系 総論・自然』pp164-167 埼玉県

- 堀越武男・中村由克 2015「鐮川上流地域にみられる石器石材「頁岩」の産地」『群馬県立自然史博物館研究報告』
19 pp115-120 群馬県立自然史博物館
- 前橋市教育委員会 1997『内堀遺跡群 IX』
- 前橋市教育委員会 2005『柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡』
- 前橋市教育委員会 2016『国指定天然記念物 岩神の飛石環境整備事業報告書』
- 前橋市教育委員会 2018『堀越甲真木 B 遺跡 旧石器時代編』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988『柳久保遺跡群 VIII』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1990『元総社明神遺跡 VIII』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1991『横俵遺跡群 III』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998『鳥取福蔵寺 II 遺跡』
- 町田洋 2011「第四紀後期の関東ローム層に記録された古環境：古土壌と考古学研究の基礎として」『地球環境』
16-2 pp189-202 国際環境研究協会
- 町田洋・新井房夫 1976「広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—」『科学』46 pp339-347
岩波書店
- 町田洋・新井房夫 1979「大山倉吉軽石層—分布の広域性と第四紀編年上の意義」『地学雑誌』88-5 pp313-330
東京地学協会
- 町田洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス—日本列島とその周辺』東京大学出版会
- 町田洋・新井房夫 2003『新編 火山灰アトラス—日本列島とその周辺』東京大学出版会
- 町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 1984「テフラと日本考古学」『古文化財の自然科学的研究』
pp865-928 同朋社出版
- 町田洋・新井房夫・百瀬貢 1985「阿蘇 4 火山灰—分布の広域性と後期更新世示標層としての意義—」『火山、
第 2 集』30- 2 pp49-70 日本火山学会
- 松井田町遺跡調査会 1997『八城二本松東遺跡・行田大道北遺跡』
- 松井田町教区委員会 2001『人見中の篠・人見中の篠 2 遺跡 人見大王寺・人見正寺田遺跡』
- 丸山清康 1958「赤城山」『勢多郡誌』pp45-121 勢多郡
- 三浦英樹 2009「第四紀後期の気候変動と地球システムの挙動—その原因とメカニズムの解明に向けて—」『第
四紀研究』48 (3) pp103-108 第四紀学会
- 水上町遺跡調査会 1985『関越自動車道（新潟線）水上町埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 宮城県考古学会 2018『宮城の旧石器時代遺跡』
- 宮崎重雄 2012「太古の動物たち」『桐生の地誌』pp79-82 桐生市教育委員会
- 宮崎重雄・島崎幾夫・神崎哲男 1995「群馬県多野郡上野村から産出した後期更新世 *Ursus actos*（ヒグマ）化石」
『化石研究会会誌』27(2) pp63-72 化石研究会
- 宮城村教育委員会 1991『市之関前田遺跡 I』
- 宮坂英式 1962『澁川』茅野市立尖石考古博物館
- 道澤明 2005「下総台地の有樋尖頭器—東内野型尖頭器の再検討—」『地域と文化農考古学 I』pp59-89 明治大
学考古学研究室
- 宮塚義人・矢島國雄・鈴木次郎 1974「神奈川県本蓼川遺跡の石器群について」『史館』3 pp1-22 史館同人
- 三好元樹 2018「愛鷹山麓の 14C 年代と古環境」『日本考古学協会 2018 年度静岡大会大会 研究発表資料集
境界の考古学』pp39-48 同大会実行委員会
- 室井綽 1960「竹笹の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』5 pp103-121 富士竹類植物園

- 村田源 2005 「日本の植物相と植生帯」『分類』 5(1) pp 1-8 日本植物分類学会
- 村井大海 2019 「第5章 考察」『墨古沢遺跡総括報告書』 pp142-161 酒々井町
- 明治大学黒曜石研究センター 2016 『長野県中部高地における先史時代人類誌 広原遺跡群第1次～第3次調査報告書』
- 森先一貴 2010 『旧石器社会の構造的変化と地域適応』六一書房
- 守屋以智雄 1968 『赤城火山の地形及び地質』前橋営林局
- 守屋以智雄 1970 「赤城火山の地形学図及び地質図に関する考察」『地図』 8-1 pp1-9 日本国際地図学会
- 森山昭雄 1971 「榛名火山東・南麓の地形—とくに軽石流の地形について—」『地理学報告』 36・37 pp105-116 愛知教育大学地理学会
- 矢口裕之 2011 「関東平野北西部、前橋堆積盆地の上部更新統から完新統に関わる諸問題」『研究紀要』 29 pp21-40 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 矢島國雄・鈴木次郎 1976 「相模野台地における先土器時代研究の現状」『神奈川考古』 1 pp1-30 神奈川考古同人会
- 安田善憲 1980 『環境考古学事始 日本列島2万年』NHK ブックス
- 安田善憲 1982 「福井県三方湖の泥土の花粉分析的研究—最終氷期以降の日本海側の乾・湿の変動を中心として—」『第四紀研究』 21(3) pp255-271 第四紀学会
- 安田善憲・三好敦夫 編 1998 『図説 日本列島植生史』朝倉書店
- 柳田俊雄 1995 「会津笹山原遺跡の旧石器時代石器群の研究—石刃技法を主体とする石器群を中心に—」『郡山女子大学紀要』 31-2 pp1-227 郡山女子大学
- 柳田俊雄 2006 「東北地方の地域編年」『旧石器時代の地域編年の研究』 pp141-172 同成社
- 柳田俊雄 2015 『日本列島の東北地方と九州地方における後期旧石器時代群編年と比較研究—地域性成立の解明—』柳田俊雄 編
- 山岡磨由子 2012 「和泉北川第3遺跡環状ブロック群の”場” —石のまとまりはなぜ”輪”を描くのか—」『研究連絡誌』 73 pp 1-15 千葉県教育振興財団
- 山岡磨由子・田村隆 2009 「後期旧石器時代南関東における赤谷層黒色頁岩の使用状況について」『研究報告 人文科学』 11-1 pp29-50 千葉県立中央博物館
- 山下秀樹 1992 「岩宿時代研究と古植生復元」『植生史研究』 1-1 pp3-10 日本植生史学会
- 山田しょう 2007 「黒曜石製石器表面のキズについて—予備的観察—」『今井見切塚遺跡—旧石器時代編—』 pp532-569 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 山田しょう 2019 「旧石器人の生活と社会」『岩宿フォーラム 2019 岩宿遺跡と日本列島の旧石器時代研究』 pp89-96 岩宿フォーラム実行委員会
- 山梨県教育委員会 2000 『横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡』
- 大和市 No.199 遺跡発掘調査団 2008 『上草柳遺跡群大和配水池内遺跡 I —本文編—』
- 山元孝広 2016 「赤城火山軽石噴火期のマグマ噴出率と組成の変化」『地質学雑誌』 122-3 pp109-126 日本地質学会
- 矢本節朗 1996 「4. 石器群の技術構造について」『多古町千田台遺跡』 pp264-267 千葉県文化財センター
- 吉井町教育委員会 2005 『長根遺跡群発掘調査報告書 IX』
- 吉川耕太郎 2002 「南関東地方における後期旧石器時代「立川ローム層第VI層段階」の様相(上)」『旧石器考古学』 63 pp35-50 旧石器文化談話会
- 吉川耕太郎 2014 「東北地方における旧石器時代の編年と年代」『旧石器研究』 10 pp67-88 日本旧石器学会

- 吉川昌伸 2016 「更新世末から完新世初頭の東北日本の植生史」『旧石器研究』12 pp1-12 日本旧石器学会
- 吉川昌伸 2018 「旧石器時代から縄文時代草創期における東北日本の植生史研究と課題」『東北日本の旧石器時代』pp19-34 六一書房
- 吉田明弘 2015 「日本列島の最終氷期における古環境研究—花粉分析を中心にした近年の研究動向と問題点—」『旧石器研究』11 pp1-12 日本旧石器学会
- 吉田明弘 2016 「長野県広原湿原周辺における過去3万年間の景観変遷と気候変動」『長野県中部高地における先史時代人類誌 広原遺跡群第1次～第3次調査報告書』pp305-315 明治大学黒曜石研究センター
- 吉田明弘・叶内敦子・神谷千穂 2016 「長野県広原湿原における花粉分析と微粒炭分析からみた過去3万年間の植生変遷と気候変動」『長野県中部高地における先史時代人類誌 広原遺跡群第1次～第3次調査報告書』pp253-268 明治大学黒曜石研究センター
- 吉田明弘・鈴木三男・金憲・大井信三・中島礼・工藤雄一郎・安藤寿男・西本豊弘 2011 「茨城県花室川堆積物の花粉・木材化石からみた最終氷期の環境変遷と絶滅種ヒメハリゲヤキの古生態」『植生史研究』20 pp27-40 日本植生史学会
- 吉田英嗣 2004a 「浅間火山を起源とする泥流堆積物とその関東平野北西部の地形発達に与えた影響」『地理学評論』77-8 pp544-562 日本地理学会
- 吉田英嗣 2004b 「既存柱状図とGISを用いた前橋泥流堆積物の体積の推定」『地形』25-1 pp67-73 日本地形学連合
- 吉田英嗣 2006 「前橋泥流が埋積した利根川扇状地の地形と泥流堆積物量の再検討」『地形』27-4 pp477-480 日本地形学連合
- 吉田英嗣 2008 「竹本氏の討論に対する見解—発達史地形学研究における前報の意義に触れて—」『地理学評論』81-6 pp516-529 日本地理学会
- 吉田英嗣・笠原友生 2016 「関東平野北西部，高崎台地から井野川低地帯にかけての地下地質」『地学雑誌』125 (5) pp763-773 東京地学協会
- 早稲田大学校地埋蔵文化財調査室 編 1996 『下戸塚遺跡の調査 第1部 旧石器時代から縄文時代』早稲田大学
- 渡辺仁 1985 『ヒトはなぜ立ち上がったか—生態学的仮説と展望—』東京大学出版会
- 和田村教育委員会 1975 『男女倉』
- Andrefsky Jr., W. 1994 Raw-Material Availability and the Organization of Technology, *American Antiquity*,59-1:21-34
- Bamforth, D. B. 1986 Technological efficiency and tool curation, *American Antiquity*,51-1:38-50
- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51-1:337-360
- Bronk Ramsey, C. 2017 Methods for Summarizing Radiocarbon Datasets, *Radiocarbon*, 59-2:1809-1833.
- Binford, L. R. 1977 Forty-seven trips: A case study in the character of archaeological formation process, In Wright, R. V. S.(ed.) *Stone Tools as Cultural Markers*:24-36, the Australian Institute of Aboriginal Studies, Canberra
- Binford, L. R. 1979 Organization and formation processes: Looking at curated technologies, *Journal of Anthropological Research*,35:255-273
- Binford, L. R. 1980 Willow smoke and dog' s tail: Hunter-gatherer settlement system and archaeological site formation, *American Antiquity*,45-1:4-20
- Binford, L. R. 1986 An Alyawara Day: Making Mens Knives and Beyond, *American Antiquity*,51-3:547-562

- Bleed, P. M. 1986 The optimal design of hunting weapons: Maintainability of reliability, *American Antiquity*,51-4:737-747
- Binford, L. R. and J. F. O'Connell 1984 An Alyawara Day: Stone Quarry, *Journal of Anthropological Research*, 40: 406-432
- Boda, E., J.-M. Geneste and L. Meignen. 1990 Identification de Chane opratoires du Palolithique ancien et moyen, *Palo*,2:43-80
- Bond, G., W. S. Broecker, S. Johnsen, J. McManus, L. Labeyrie, J. Jouzel and G. Bonani 1993 Correlations between climate records from North Atlantic sediments and Greenland ice, *Nature*,365:143-147
- Broecker, W. S. 1994 Massive iceberg discharges as triggers for global climate change, *Nature*, 372:421-424
- Clarkson, C 2007 Modelling Optimality in Subsistence and Technology, In *Lithics in the Land of the Lightning Brothers: The Archaeology of Wardman Country, Northern Territory*:9-25, ANU Press, Canberra
- Dansgaard, W., S. J. Johnsen, H. B. Clausen, D. Dahl-Jensen, N. S. Gundestrup, C. U. Hammer, C. S. Hvidbergm, J. P. Steffensen, A. E. Sveinbjornsdottir, J. Jouzel and G. Bond 1993 Evidence for general instability of past climate from a 250-kyr ice core record, *Nature*,364:218-220
- Dobson, M. and Y. Kawamura, Y. 1997 Origin of the Japanese Land Mammal Fauna: Allocation of Extant Specieses to Historically-based Categories, *The Quaternary Research*,37:385-395
- Gotanda, K., T. Nakagawa, P. Tarasov, J. Kitagawa, Y. Inoue, Y. Yasuda 2002 Biome classification from Japanese pollen data: application to modern-day and Late Quaternary samples, *Quaternary Science Review*,21:647-657
- Hayashi, R., H. Takahara, A. Hayashida and K. Takamura 2010 Millennial-scale vegetation changes during the last 40,000 yr based on a pollen record from Lake Biwa, Japan, *Quaternary Research*,74:91-99
- Hasegawa, H. and Y. Matsushima 1968 First discovery of fossil elk deer antler from Japan, *Bulletin of the National Science Museum*, 11-1:77-84
- Heinrich, H. 1988 Origin and Consequence of Cyclic Ice Rafting in the Northeast Atlantic Ocean during the Past 130,000 Years, *Quaternary Research*, 29:142-152
- Inouchi, Y., S. Yokota, and S. Terashima 1996 Climatic changes around Lake Biwa during the past 300000 years and 2000 years. In Mikami, T., E. Matsumoto, S. Ohta and Sweda, T. (eds.) Proc. 1995 *Nagoya IGBP-PAGES/PEP-II Symp.*:109-114.
- Iwase, A, J. Hashizume, M. Izuho, K. Takahashi and H. Sato 2012 Timing of megafaunal in the late Late Pleistocene on the Japanese Archipelago, *Quaternary International*,255:114-124
- Johnsen, S. J., H. B. Clausen, W. Dansgaard, K. Fuhrer, N. Gundestrup, C. U. Hammer, P. Lversen, J. Jouzel, B. Stauffer and J. P. Steffensen 1992 Irregular glacial interstadials recorded in a new Greenland ice core, *Nature*,359:311-313
- Kigoshi, T., F. Kumon, R. Hayashi, M. Kuriyama, K. Yamada, K. Takemura 2014 Climate changes for the past 52 ka clarified by total organic carbon concentrations and pollen composition in Lake Biwa, Japan, *Quaternary International*,333:2-12
- Kuhn, S. L. 1992 On Planning and Curated Technologies in the Middle Paleolithic, *Journal of Anthropological Research*, 48 (3) :185-214
- Kuhn, S. L. 1995 *Mousterian lithic technology*, Princeton University Press, Princeton
- Martison, D.G., N. G. Psisas, J. D. Hays., J. Imbrie, T. C. Moore, Jr. and N. J. Shackleton 1987 Age Dating and the Orbital Theory of the Ice Ages: Development of a High-Resolution 0 to 300,000-Year Chronostratigraphy, *Quaternary Resarch*, 27:1-29
- Matsuda, I. 1974 Distribution of the Recent Deposits and Buried Landforms in the Kanto Lowland, Central Japan. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University*,9: 1-36

- Meyers, P. A., K. Takemura and S. Horie 1993 Reinterpretation of Late Quaternary Sediment Chronology of Lake Biwa, Japan, from Correlation with Marine Clacial-Interclacial Cycles, *Quaternary Research*,39:154-162
- Miyoshi, N., T. Fujiki and Y. Morita 1999 Palynology of a 250-m core from Lake Biwa: a 430,000-year record of glacial-interglacial vegetation change in Japan, *Review of Paleobotany and Palynology*, 104:267-283
- Mori, T., K. Kashiwagi, S. Amekawa, H. Kato, T. Okumura, C. Takashima, C-C. Wu, C-C. Shen, J. Quade and A. Kano 2018 Temperature and seawater isotopic controls on two stalagmite records since 83 ka from maritime Japan, *Quaternary Science Reviews*,192:47-59
- Morisaki, K., K. Sano. and M. Izuho 2018 Early Upper Paleolithic blade technology in the Japanese Archipelago, *Archaeological Research in Asia*,17:79-97
- Nakagawa, T., P. E. Tarasov, K. Nishida, K. Gotanda and Y. Yasuda 2002 Quantitative pollen-based climate reconstruction in central Japan: application to surface and Late Quaternary spectra, *Quaternary Science Reviews*,21:2099-2113
- Nakagawa, T., H. Kitagawa, Y. Yasuda, P. E. Tarasov, K. Gotanda and Y. Sawai 2005 Pollen/event stratigraphy of the varved sediment of Late Suigetsu, central Japan from 15,701 to 10,217 SG vyr BP (Suigetsu varve years before present) : Description, interpretation, and correlation with other regions, *Quaternary Science Review*,24:1691-1701
- Nakagawa, T., K. Gotanda, T. Haraguchi, T. Danhara, H. Yonenobu, A. Brauer, Y. Yokoyama, R. Tada, K. Takemura, R. A. Staff, R. Payne, C. B. Ramsey, C. Bryant, F. Brock, G. Schlolaut, M. Marshall, P. Tarasov, H. Lamb and Suigetsu 2006 Project Members 2012 SG06, a fully continuous and varved sediment core from Lake Suigetsu, Japan: stratigraphy and potential for improving the radiocarbon calibration model and understanding of late Quaternary climate changes, *Quaternary Science Review*,36:164-176
- NGRIP members 2004 High-resolution record of Northern Hemisphere climate extending into the last interglacial period, *Nature*, 431: 147-151
- Norton, C. J., Y. Kondo, A. Ono, Y. Zhang and M. C. Diab 2010 The nature of megafaunal extinctions during the MIS 3-2 transition in Japan, *Quaternary International*,211:113-122
- Oda, S. and C. T. Keally 1975 Japanese Pre-ceramic Cultural Chronology, Occasional Papers 2, Archaeological Research Center, International Christian University
- Reimer, J. P., E. Bard, A. Bayliss, J. W. Beck, P. G. Blackwell, C. B. Ramsey, C. E. Buck, H. Cheng, R. L. Edwards, M. Friedrich, P. M. Grootes, T. P. Guilderson, H. Haflidason, I. Hajdas, C. Hatt?, T. J. Heaton, D. L. Hoffmann, A. G. Hogg, K. A. Hughen, K. F. Kaiser, B. Kromer, S. W. Manning, M. Niu, R. W. Reimer, D. A. Richards, E. M. Scott, J. R. Southon, R. A. Staff, C. S. M. Turney, and J van der Plicht 2013 IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP, *Radiocarbon*,55-4:1869-1887
- Robinson, E. and F. Sellet. 2018 Lithic Technological Organization and Paleoenvironmental Change, In E. Robinson and F. Sellet (ed.) *Lithic Technological Organization and Paleoenvironmental Change Global and Diachronic Perspectives*:1-12, Springer International Publishing, Switzerland
- Sakaguchi, Y. 1978 Climatic changes in central Japan since 38,400yBP: Viewed from palynological study on Ozegahara deposits, *Bulletin of the Department of Geography, University of Tokyo*,10: 1-10
- Sano, K. 2016 Evidence for the use of the bow-and-arrow technology by the first modern humans in the Japanese islands, *Journal of archaeological science reports*,10:130-141
- Schlolaut, G., A. Brauer, M. H. Marshall, T. Nakagawa, R. A. Staff, C. B. Ramsey, H. F. Lamb, C. L. Bryant, T. Haraguchi, and Suigetsu 2006 project members 2014 Event layers in the Japanese Lake Suigetsu 'SG06' sediment core: description, interpretation and climatic implications, *Quaternary Science Review*,83:157-170
- Schlolaut, G., R. A. Staff, A. Brauer, H. F. Lamb, M. H. Marshall, C. B. Ramsey and T. Nakagawa 2018 An

- extended and revised Lake Suigetsu varve chronology from ~50 to ~ 10 ka BP based on detailed sediment micro-facies analyses, *Quaternary Science Review*,200:351-366
- Smith, V. C., R. A. Staff, S. P. E. Blockley, C. B. Ramsey, T. Nakagawa, D. F. Mark, K. Takemura, T. Dnhara and Suigetsu 2006 Project Members 2013 Identification and correlation of visible tephras in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/ west Pacific paleoclimatic records across the last 150 ka, *Quaternary Science Reviews*, 67:121-137
- Sugita, S. 1994 Pollen Representation of Vegetation in Quaternary Sediments: Theory and Method in Patchy Vegetation, *Jurnal of Ecology*,82:881-897
- Takahara, H., Y. Igarashi, R. Hayashi, F. Kumon, P-M. Liew, M. Yamamoto, S. Kawai, T. Oba and T. Irino 2010 Millennial-scale variability in vegetation records from the East Asian Islands: Taiwan, Japan and Sakhalin, *Quaternary Science Reviews*,29:2900-2917
- Tarasov, P. E., T. Nakagawa, D. Demske, H. ?sterle, Y. Igarashi, J. Kitagawa, L. Mokhova, V. Bazarova, M. Okuda, K. Gotanda, N. Miyoshi, T. Fujiki, K. Takemura, H. Yonenobu and A. Fleck 2011 Progress in the reconstruction of Quaternary climate dynamics in the Northwest Pacific: A new modern analogue reference database and its application to the 430-kyr pollen record from Lake Biwa, *Earth-Science Reviews*, 108:64-79
- Torrence, R. 1989 Retooling: towards behavioral theory of stone tools, In R. Torrence(ed.) *Time, energy and stone tools*: 57-66, Cambridge, Cambridge University Press
- Tsukada, M. 1985 Map of Vegetation during the Last Glacial Mazimum in Japan, *Quaternary Research*, 23:369-381
- Wang, Y. J., H. Cheng, R. L. Edward, Z. S. An, J. Y. Wu, C.-C. Shen and J. A. Dorale 2001 A High-Resolution Absolute-Dated Late Pleistocene Monsoon Reord from Hulu Cave, China, *Science*,294-14:2345-2348
- Wang, Y. J., H. Cheng, R. L. Edward, X. Kong, X. Shao, S. Chen, J. Y. Wu, X. Jiang, X. Wang, and Z. S. An 2008 Millennial- and orbital-scale changes in the East Asian monsoon over the past 224,000 years, *Nature*,451-28:1090-1093
- Wiessner, P. 1982 Risk, reciprocity and social influences on !Kung San economics, In E. Leacock and R. Lee(ed.) *Politics and history in band societies*: 61- 84, Cambridge, Cambridge University Press
- Wiessner, P. 1983 Style and Social Information in Kalahari San Projectile Points, *American Antiquity*,48:253-276

(別紙1)

論文の内容の要旨

論文題目：関東平野北西部における後期旧石器集団の居住形態の変遷

氏名：小原俊行

第1章・第2章

本研究の目的は、人類の活動痕跡である考古学的資料と、古環境変遷や地形発達史などの自然環境に関する資料を総合して論じることによって、旧石器時代の人類の環境適応の過程を説明することにある。

近年の日本の旧石器研究を概観すると、1990年代以降に推進された社会生態考古学的研究の中で石材分析等を基にした行動論研究や、石器群の広域編年対比が活発に議論された一方、研究の根幹を形成する編年観などについては、脱却すべきパラダイムとされた発展史観論が多大な影響を及ぼしていることが判明した。また、遊動型狩猟採集民と考えられる旧石器集団の適応行動の変化を考える上で、環境史の変化は契機の一つとして考えられるため、両領域の時間的対応関係を精確に把握することが求められる。しかし、半世紀近くに及ぶ大規模開発に伴う発掘調査によって得られた膨大な量の考古学的・自然科学的資料が統合して議論されておらず、未消化のまま蓄積されている現状が認められる。よって、旧石器研究に求

められる今日的な課題は、(1) モデル偏重型の演繹的説明でもなく、些末な実証主義的研究でもない、豊富な考古学的資料によって担保された、広域一局地の両端を横断可能なシナリオの提示と実証、(2) 自然科学分野の知見も取り入れた人類の環境適応史の総合的研究の両輪であると考えた。

本論で対象とする関東平野北西部では、遺跡から出土した資料数と、地形発達史・古環境研究等の自然科学分析の両側面において、膨大な量の情報が蓄積されている。加えて、当該地域の後期旧石器時代の石器群の特徴として、編年観や遺跡数の増減などが隣接する関東平野南域と対照的な傾向を示す。本研究では、これらの現象の背景にある旧石器時代の集団の居住形態の変化を、石器群の編年と自然環境の変遷との対応関係も踏まえた上で問い直した。

第3章・第4章

関東平野北西部は、現在の群馬県内である赤城山南麓を中心とした地域である。関東平野周辺域の資源分布構造を概観すると、本地域は通時的に狩猟採集活動の中心部であった平野南域と、石器石材原産地が分布する平野周辺域の中間帯に位置する。

後期旧石器時代における自然環境の時空間的变化を確認するため、花粉化石と植物珪酸体の分析例、哺乳動物化石の産出状況、主要な地域・河川流域の地形発達史について整理した。また、環境変遷と石器編年を実年代で比較するために、当該域のテフラ等の降下年代を整理した。

本地域の検出テフラを年代基準とすると、榛名箱田テフラ (Hr-HA) 降下後から始良 Tn 火山灰 (AT) 降下前の 35-30 ka cal BP (1 ka cal BP =1,000 calibrated years Before Present) は比較的温暖な気候ではあるものの、相対的な温暖期・寒冷期を繰り返す時期で冷温帯落葉広葉樹林が広がる環境であった。しかし、AT 降下前の 32-30ka cal BP では急激な寒冷化・乾燥化が起き、亜寒帯性針葉樹林が主体となった。室田軽石 (MP) 降下後の 28 ka cal BP では短期間の温暖化が起きるが、浅間板鼻褐色軽石群 (As-BP Group) 降下期間中の 28-24 ka cal BP は寒冷な気候となる。As-BP Group 上部から浅間大窪沢軽石群 (As-0k Group) 間の 24-21 ka cal BP では温暖だがやや寒冷な気候となり、亜寒帯性針葉樹林が分布する中に冷温帯性落葉広葉樹が伴う。As-0k Group 降下後から浅間板鼻黄色軽石 (As-YP) 降下前である 21-19 ka cal BP は寒冷な気候になり、基本的に針葉樹林が卓越する環境となる。しかし、As-YP 降下直前である 16 ka cal BP に向かって湿潤化して落葉広葉樹の分布が広がるようになる。

結論として、当該地域の古環境変遷は、より広域な範囲での気候変動と連動していることが示された。哺乳動物化石の検討では、本地域ではナウマンゾウ・ヤベオオツノジカ動物群が生息しており、動物群中の大型哺乳動物は 27.5 ka cal BP に古本州島全体で絶滅したと推定された。

第5章

関東平野北西部における後期旧石器時代の石器群の編年観を整理した。その際、既存の地域編年である「群馬編年」を用いず、システム論的進化・発展論を基に、遺跡を単位として個々の石器の系統関係を追究して編年を再構築した。そして、前章までに復原した古環境変遷との通時的対応関係を検討した。

本地域の石器群を遺跡ごとに確認した結果、後期旧石器時代前半期 (35-27 ka cal BP) における「台形様石器 II 類の規格化・量産化にみられる特殊化」と、「赤谷層産黒色頁岩を用いた大型石刃 (石刃サゴート) の運搬と背部加工尖頭形石器の規格的生産」が、時期を違えて段階的に発生した現象であると捉えられた。これらの現象は従前の研究において補完関係にあるとされていたが、台形様石器 II 類の特殊化

は 35-32 ka cal BP の不安定な気候における森林性環境下での生業活動への適応であるのに対し、石刃サポートの運用は 32-30 ka cal BP の安定的な寒冷・乾燥化した草原性環境への適応と推定された。

また、台形様石器 II 類の特殊化は、本地域では信州産黒曜石を用いた縦長剥片剥離技術の行使と強固に結び付いていることが認められた。この現象は、石刃サポートを中心とした石材消費戦略に切り替わる時期に、その影響を受けて断絶する。これにより、東北・北陸地方と本地域における台形様石器 II 類の特殊化は、継続期間と地域適応の過程がそれぞれ異なることが推定された。そして、(1) 広域に認められる石器の形態変化と、(2) 各地域の諸資源の利用形態に基づいた局地的な石器の変異という、異なる位相の変化・変異が石器の形態的多様性を生み出していることを示した。

後半期 (27-16 ka cal BP) は、前半期と比較しても段階ごとにおける石器群の変化が著しく、古環境変動が起きる時期とも一致する傾向にあった。そのため、前半期と比較しても大幅な社会の再編成が起きる頻度が前半期と比較しても高かったことが予想される。

第6章

前章で得られた編年観を基にした遺跡分布の時空間的な変遷から、旧石器集団の本地域内での居住形態の変遷を確認した。これにより、前半期から後半期への遺跡数の激減という現象は、生業戦略の環境適応に伴う居住形態の漸進的な変化として捉えることが可能となった。

35 ka cal BP 以降、赤城山南麓を中心として環状ブロック群などにみられる旧石器集団の拠点的居住性が認められた。その後、32 ka cal BP 以降には寒冷・乾燥化が安定して進行することから、大型哺乳動物の狩猟を主とした生業戦略に移行することで、居住形態も前代と比較して広域移動を想定したものに变化する。その結果、黒色頁岩製石刃・縦長剥片を運用する技術体系に重点化すると共に、本地域では拠点的居住性が石材資源の獲得を主目的としたものに移行した。黒色頁岩製石刃の運用が最も特殊化する時期には、黒色頁岩原産地付近の利根川流域に大規模遺跡が形成される一方、赤城山南麓には小規模な遺跡が点在するのみとなった。黒色頁岩製石刃の運用の背景にある広域移動を伴う居住形態に移行した結果、赤城山南麓での旧石器集団の生業活動の機会は著しく低下した。

30-27 ka cal BP には短期間の温暖化が繰り返し起きるなど、気候変動が不安定な時期であった。信州産黒曜石の利用頻度が著しく増大する時期が認められ、短期間の温暖化との相関関係が想定される。一方、その後の 28-27 ka cal BP における短期間の温暖化期には信州産黒曜石の利用頻度が低下すると共に、黒色安山岩を用いた石刃生産を行っていた。30-27 ka cal BP の期間は大型哺乳動物の絶滅時期に該当する。短期間のうちの急激な温暖化・寒冷化といった不安定な気候変動と大型獣の絶滅に適応するために、旧石器集団の主要な狩猟対象獣は中・小型動物に変更され、それに伴って黒曜石の利用頻度低下、そして移動領域の縮小という事態が生じた。

後期旧石器時代後半期前葉では、本地域の遺跡数が激減するが、この現象は前半期末から進行した旧石器集団の生業・移動領域の縮小を反映したものである。従前の研究では、本地域は浅間山の噴火が活発化することから、遺跡数の激減という現象を局地的な災害イベントと関連付けられていた。しかし、このような表面的な現象と直接的に結び付けて捉えるのではなく、居住形態の変遷過程を追究した上で当該期集団が本地域を生業域として積極的に利用しなかった理由を検討することの必要性が明示された。

後期旧石器時代後半期中葉には武井遺跡のような大規模な尖頭器製作遺跡が大間々扇状地扇頂部に形成される。本期の大規模尖頭器製作遺跡が形成された要因には、大間々扇状地周辺の地形発達史のほか、

それまでの古環境の変遷や、旧石器集団の石器製作技術や居住形態の変化など、当該期の自然・社会的環境の変化が複合的に関連し合った結果であることが示された。

その後、後期旧石器時代後半期後葉における細石刃石器群と大型尖頭器石器群は前代までのものとは異なり、河川流域沿いに特に遺跡が形成される傾向にあった。大型尖頭器石器群において出現期土器が現れ、その後に縄文化が進行していく。その土台には、後半期中葉から始まった本地域の生業領域としての回復と、削片系細石刃石器群からの河川流域沿いにおける土地利用の重点化が密接に関連していると推測した。

旧石器時代の石器群の変化は、単純に気候変動と対応するわけではない。それに伴う動植物相の変化と、適応するための生業戦略・居住形態の変化といった、当該期の狩猟採集民の行動と連動していることが本研究によって示された。このことは遺跡の時空間的な分布の変化においても同様に言える。本研究のように、旧石器時代の狩猟採集民と当該期の自然環境の変遷との対応関係を踏まえて議論することは、出土遺物が殆ど石器に限られる本国の旧石器研究に大いに寄与すると考えられる。